

521

授業科目名	経営学入門				
担当教員	西釜義勝				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

ニュースや新聞などで見聞きする我々の身の回りで起きている現象の多くには企業や組織がからみ、ほとんどの問題は経営の問題として読み解くことができる。現代社会において極めて重要な役割を果たしている企業と、それを巻き巻く様々な利害関係者の関係を取り上げる。経営学では、企業の経営資源や諸機能をどのようにしてマネジメントするのかという企業活動での事実の見方を学ぶ。本講義では、経営学の基本的な考え方と仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

経営学に関する知識  
経営学に関する知識の応用

経営学の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。  
企業経営の現況を説明できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末試験

： 講義内容の理解度を評価する。

50 %

課題レポート	:	課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
	20 %	
小テスト	:	講義内容の理解度を評価する。
	10 %	
授業への参加意欲	:	コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。
	20 %	

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田誠	・経営学入門	・中央経済社	・2015年

### 参考文献等

- 味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編 (2017) 『【改訂版】業種把握読本—時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社。  
 吉村典久・田中一弘・伊藤博之・稲葉祐之 (2017) 『企業統治』中央経済社。  
 上林憲雄編著 (2016) 『人的資源管理』中央経済社。  
 関口倫紀・竹内規彦・井口知栄編著 (2016) 『国際人的資源管理』中央経済社。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:	金曜日3限
場所:	研究室
備考・注意事項:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記以外の場合、申し出て下さい。</li> <li>・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。</li> <li>・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。</li> </ul>

### 授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>イントロダクション：講義の進め方の説明と経営学を学ぶ意義</b>  本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「経営学」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。	<b>【予習】</b> シラバスを読んでおくこと。 <b>【復習】</b> 経営学入門／マネジメント入門の講義概要を確認すること。	4 時間
第2回 <b>経営学の全体像</b>  主として「企業」を研究対象とする経営学とはどのような学問であるのか、キーワードをもとに考え、企業の諸活動を概観する。	<b>【予習】</b> 教科書の第1章(pp. 1-32)について読んでおくこと。 <b>【復習】</b> 第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4 時間
第3回 <b>制度の選択 (1) 企業と会社の制度的な特徴</b>  現代社会を代表する会社形態である株式会社に焦点を当て、その特徴を考える。	<b>【予習】</b> 教科書の第2章(pp. 33-47)について読んでおくこと。 <b>【復習】</b> 第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4 時間
第4回 <b>制度の選択 (2) コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任</b>	<b>【予習】</b> 教科書の第3章(pp. 48-74)について読んでおくこと。 <b>【復習】</b> 第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4 時間

	<p>企業・会社は誰のものか、企業・会社はどのように統治されているのか、あるいは統治されるべきであるのかといった問題について、企業を取り巻く多様な利害関係者の存在や企業の社会的責任に関する考え方をもとに検討する。</p>		
第 5 回	<p><b>戦略の形成 (1) 経営理念、目的と戦略</b></p> <p>経営理念、ビジョン、経営哲学など経営を行うための考え方、価値観、規範に関して学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第4章(pp. 75-95)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 6 回	<p><b>戦略の形成 (2) 企業戦略</b></p> <p>「経営組織における戦略とはどのような概念であるのか」ということについて、基礎的事項を学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第5章(pp. 96-113)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 7 回	<p><b>戦略の形成 (3) 競争戦略と事業システム</b></p> <p>個々の事業分野での競争に勝ち抜いていくための戦略について基礎的事項を学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第6章(pp. 114-129)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 8 回	<p><b>組織の枠組み作り (1) 組織構造</b></p> <p>組織における行動について、組織全体のルールや仕組みといった構造的な側面から考える。</p>	<p>【予習】教科書の第7章(pp. 131-154)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 9 回	<p><b>組織の枠組み作り (2) 組織文化、コンフリクトのマネジメント</b></p> <p>組織の中における個人と個人の間の争いと部門と部門の間の争いが発生する原因とその対処方法、組織変革に関する考え方を学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第8章と第9章(pp. 155-192)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 10 回	<p><b>国際経営：海外進出企業の組織形態</b></p> <p>複数の国にまたがって行われる経営について学習する。</p>	<p>【予習】日本企業の海外進出事例について調べてくること。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 11 回	<p><b>組織における人間への対応：リーダーシップ、モチベーション</b></p> <p>企業の目標達成に向けた行動について、個人と組織の視点から考える。さらに、「企業という組織の中で、人はなぜ働くのか」ということについて心理的側面から考える。</p>	<p>【予習】教科書の第10章(pp. 193-214)と第11章(pp. 215-234)について読んでおくこと。【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 12 回	<p><b>人的資源管理の仕組み</b></p> <p>組織と個人の関係の変化について検討し、キャリアとは何かを考えるとともに、自律的なキャリア形成のために企業が実施している仕組みについて考える。</p>	<p>【予習】身近にある人材育成の方法について調べてくること。【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 13 回	<p><b>プロジェクトマネジメント</b></p> <p>プロジェクトやチームの意義を理解し、どのように構築するのか、運営方法について学習する。</p>	<p>【予習】身近にあるチームについて考えてくること。【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4 時間
第 14 回	<p><b>まとめ：経営学の展望</b></p>	<p>【予習】教科書の第12章(pp. 235-251)について読んでおくこと。【復習】講義内容について見直しをすること。</p>	4 時間

これまでの講義で学習した内容を振り返り、経営学を学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、経営学の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらい、自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。

---

521

授業科目名	会計学入門				
担当教員	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

企業は、株主・債権者を含む利害関係者に対して、財務諸表を通し、自社の財政状態や経営成績の報告を行っている。また、利害関係者は、この財務諸表を用いて、投資や融資を含む企業に関する様々な意思決定を行っている。従って、財務諸表における情報を読み取り、その内容を理解することは、企業の状態を知る際に非常に重要とされる。本講義は、財務諸表を構成する貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書の意義および仕組みを理解し、これらの分析手法について学習および理解することを目的としている。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

会計学の基礎知識

#### 目標：

財務諸表の内容を理解し、分析することができる。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

企業の財務諸表から財政状態や経営成績を読み取り、問題点を発見できる。

与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト	30 %	：	授業内容の理解度を評価する。
課題の提出	30 %	：	学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。
期末テスト		：	授業で得た会計学の基本知識である財務諸表の内容とその分析方法の理解度を確認する。

40 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪商工会議所編	『ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級（第5 版）』	・中央経済社	・2023年

## 参考文献等

谷武幸、桜井久勝、北川教央編著『1からの会計（第1版）』碩学舎、2021年。  
桜井久勝『財務諸表分析（第8版）』中央経済社、2020年。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜2限目
場所：	個人研究室（西館2F）
備考・注意事項：	質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 財務諸表とは 講義の進め方に関する説明 財務諸表の意義 財務諸表の役割と種類	テキスト第1章「財務諸表」とはの復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第2回 貸借対照表 (1) 貸借対照表のしくみ 貸借対照表とは 貸借対照表の様式および表示	テキスト第2章「貸借対照表」第1節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第3回 貸借対照表 (2) 資産 資産の概念と分類 資産の金額 流動資産、固定資産および繰延資産	テキスト第2章「貸借対照表」第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第4回 貸借対照表 (3) 負債 負債の概念と分類 流動負債および固定負債	テキスト第2章「貸借対照表」第3節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第5回 貸借対照表 (4) 純資産 純資産の概念と分類 株主資本、評価・換算差額等および新株予約権	テキスト第2章「貸借対照表」第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第6回 損益計算書 (1) 損益計算書のしくみ 損益計算書とは 損益計算書の5つの利益 損益計算書の様式 損益計算の3つのルール	テキスト第3章「損益計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第7回 損益計算書 (2) 5つの利益 売上総利益 営業利益 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益	テキスト第3章「損益計算書」第3節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第8回 キャッシュ・フロー計算書 (1) キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書と貸借対照表・損益計算書との関係	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第9回 キャッシュ・フロー計算書 (2) キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方 キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間

第 10 回	<b>財務諸表分析 (1) 財務諸表分析とは</b>  財務諸表分析の関係者と対象情報 財務諸表分析の基本体系 分析結果の判断のための基準	テキスト第5章「財務諸表分析」第1節～ 第4節の復習および次回講義内容のテキスト 予習	4 時間
第 11 回	<b>財務諸表分析 (2) 百分比財務諸表 分析・成長性分析</b>  百分比財務諸表分析 成長性および伸び率の分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第5節お よび第6節の復習および次回講義内容のテ キスト予習	4 時間
第 12 回	<b>財務諸表分析 (3) 安全性分析</b>  流動比率 正味運転資本 当座比率 自己資本比率	テキスト第5章「財務諸表分析」第7節の 復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第 13 回	<b>財務諸表分析 (4) 収益性分析</b>  資本利益率 総資本経常利益率 自己資本利益率	テキスト第5章「財務諸表分析」第9節の 復習および次回講義内容のテキスト予習	4 時間
第 14 回	<b>財務諸表分析 (5) 1株当たり分析お よび1人当たり分析</b> 1株当たり当期純利益 株価収益率 1株当たり純資産 株価純資産倍率 1人当たり分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第10節お よび第11節の復習	4 時間

521

授業科目名	ビジネス会計				
担当教員	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

簿記とは、企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のことを指す。簿記の目的は、企業の経済活動を記録することおよび企業の財政状態および経営成績を明らかにすることである。簿記システムから得られた情報は、企業経営者が経営管理を行う場合、債権者が企業への融資を判断する場合等、様々な場面で利用され、利害関係者が意思決定を行う際に非常に重要な役割を果たしている。従って、このように重要な情報がどのような仕組みを通して作成されているのかを本講義では学習していく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

企業の財務諸表を作成するまでの簿記の一連の手続きに関する知識

#### 目標：

企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。

#### 汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取り組み

与えられた課題をやり遂げることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題は主として問題集からページを指定して与えます。授業時間内に巡回し、個人の進捗を確認します。また、授業中に確認テストも行います。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題の期限内提出	30 %	： 課題の期限内の提出とその内容により評価を行う。
小テスト	30 %	： 授業中内に行う小テストにより、授業中に学んだことへの理解に対する評価を行う。
期末テスト		： 企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができるかどうかを評価する。



40 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 商業簿記 Ver. 14.0』	・TAC株式会社 出版事業部	・2023年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 商業簿記 Ver. 14.0』	・TAC株式会社 出版事業部	・2023年

## 参考文献等

滝澤ななみ『みんなが欲しかったシリーズ みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第11版』TAC株式会社 出版事業部、2023年。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜2限目
場所：	個人研究室（西館2F）
備考・注意事項：	質問はメールでも受け付けます。 メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

## 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、簿記の基礎 会計の原理および簿記の仕組みについて理解する。	貸借対照表と損益計算書の役割、ひな形を覚える。勘定科目とグループを理解し、暗記する。テキストおよびトレーニングのテーマ1を読み、問題を解く。	4 時間
第2回 日常の手続き、商品売買I（三分法、分記法） 簿記上の取引を理解し、仕訳ができるようにする。総勘定元帳への転記と試算表、貸借対照表と損益計算書の作成までの簿記の一巡の手続きを理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ2および3を読み、問題を解く。	4 時間
第3回 商品売買II（掛取引、手付金、商品券） 三分法による様々な商品売買の仕訳、現金取引と掛取引を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ3を読み、問題を解く。	4 時間
第4回 商品売買III（返品、諸掛り、売掛金・買掛金元帳、商品有高帳） 返品時の処理を理解し、仕訳ができるようにする。売掛金・買掛金元帳および商品有高帳の記帳の仕方を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ4を読み、問題を解く。	4 時間
第5回 現金・預金、小口現金 当座取引については当座借越の処理を理解し、仕訳ができるようにする。預金の種類および複数銀行口座の所有の場合の処理について理解する。また、小口現金の帳簿のつけ方とタイミングを把握する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ5および6を読み、問題を解く。	4 時間
第6回 クレジット売掛金、手形取引 クレジット払いした場合の処理を理解する。また、受取手形・支払手形の処理を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ7および8を読み、問題を解く。	4 時間
第7回 電子記録債権・債務、さまざまな帳簿の関係 電子記録債権・債務の処理について理解する。当座預金出納帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳、売掛金元帳などの様々な帳簿の記帳方法を学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ9および10を読み、問題を解く。	4 時間

第 8 回	<b>その他の取引 I (貸付金・借入金、利息等)</b> 金銭の貸付けと借入れ、利息について理解し、仕訳ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ11を読み、問題を解く。	4 時間
第 9 回	<b>その他の取引 II (有形固定資産の取得・売却・賃借)</b> 有形固定資産の種類、有形固定資産の取得・売却・賃借、および差入保証金に係る処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ12を読み、問題を解く。	4 時間
第 10 回	<b>その他の取引 III (仮払金・仮受金、給与)</b> 仮払金及び仮受金の処理について理解する。従業員に対する一時的な立替払いや預り金の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ13を読み、問題を解く。	4 時間
第 11 回	<b>訂正仕訳、証ひょうと伝票</b> 訂正仕訳の様々なパターンを学習し、仕訳ができるようにする。伝票会計の理解と仕訳日計表ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ14および30を読み、問題を解く。	4 時間
第 12 回	<b>試算表 I (合計試算表・残高試算表・合計残高試算表)</b> 基本的な期中取引を試算表に集計できるように学習する。期中取引を総復習する。	テキストにおけるテーマ15を読み、トレーニング問題15-1を解く。	4 時間
第 13 回	<b>試算表 II (試算表作成問題の手順)</b> 仕訳、総勘定元帳への転記、試算表の作成という一連の手続きについて学習する。	テキストにおけるテーマ15を読み、トレーニング問題15-2を解く。	4 時間
第 14 回	<b>主要な財務指標の種類と使い方</b> 財務諸表の基本と読み方、および流動比率、当座比率、自己資本比率等の主要な財務指標の種類と使い方について学習する。	配布資料より各指標の算定方法とこれらの指標により企業の財政状態や経営成績におけるどのようなことを知ることができるかを再度確認し、理解しておく。	4 時間

521

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員	国枝よしみ				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社勤務を経て、ホテルの管理職、広域自治体での管理業務を担った。これまで企画、広報、マーケティング戦略、人事、地域・観光戦略などを経験している。(14回)				

### 授業概要

本講義では、マーケティングの必読書を中心に理論と実際を紹介していく。マーケティングのカテゴリーとしては、市場と顧客、戦略、ブランドと価格、サービス・マーケティング、マーケティング・コミュニケーション、チャネルと販売の6つに分け、講義を進める。マーケティングは常に政治・経済・社会・技術などによって変化していくため、10年前の理論も有効でないものが存在する。そのため、講義で使用する理論はマーケティングを学ぶ上で最低限必要な理論を厳選し、日々刻々と変わる社会情勢に合わせた実際を踏まえながら講義を展開していく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

- 企業や地域におけるマーケティングの役割を理解する
- 観光経営に必要なマーケティングとは何かを理解する

- マネジメント及びビジネスの仕組みの理解
- 事業別観光経営の理解

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

- マーケティングを通じて課題を発見する

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

提出物は模範解答や興味深いものを紹介して情報の全体共有を行います。

### 成績評価

#### 注意事項等

授業中あるいは、授業後に課題提出を行います。提出はgoogle classroomで行い、提出後は解答の中から模範解答や興味深いものを紹介して情報の全体共有を行います。プレゼンテーションは、前半で学んだ内容を応用し、グループごとに報告を行います。小テストは基本的な内容に関して出題します。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

- 平常点  
10 %  
プレゼンテーション  
30 %
- ： 授業中に意見を求めることがありますので積極的に授業に参加すること。
- ： マーケティング入門の授業内容に関して、グループで発表を行います。評価基準は独自のルーブリックによる。

課題・小テスト	:	授業で学習した内容からマーケティングに関する課題に取り組みます。評価基準は独自のルーブリックによる。
	30 %	
期末レポート	:	評価基準は内容、分析、基本事項の理解など独自のルーブリックによる。
	30 %	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

永井孝尚（2020）『世界のエリートが学んでいるMBAマーケティング必読書50冊を1冊にまとめてみた』KADOKAWA

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜4時限
場所：	研究室（西館3階）
備考・注意事項：	上記の時間以外にも質問などあればkunieda@osaka-seikei.ac.jpへメールしてください。学籍番号と名前、件名を忘れずに記入してください。

### 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 講義の全体ガイダンス、市場と顧客想定外「ブラック・スワン」時代のマーケティング はじめに、講義全体のシラバス確認および、成績評価方法などの説明を行う。 時代の趨勢を鑑み、甚大な影響を与える「想定外」について考える。「真っ白なカラスがいる」と言われれば、多く人は「ありえない」と笑う。しかし、本当にいたら常識は覆る。かつて「白鳥は白い」は常識だったがオーストラリアで黒い白鳥が発見された。まさに「想定外」が起こった。2020年に始まったコロナ禍なども踏まえ、常識から逸脱した想定外でのマーケティングの必要性について、第一回目に解説する。	コロナ禍で覆されたこれまでの常識のマーケティングやビジネスモデルなど、自分の得意分野に当てはめて考える。	4 時間
第2回 ①戦略「マーケティング原理とポジショニング戦略」STPと4P コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理を参考に戦略の「STP」(Segmentation, Targeting, Positioning) から「4P」(Product, Price, Promotion, Place) の流れについて解説する。	身近な商品の一つを取り上げ、その商品がターゲットとしている消費者層を考え、どんな価格帯やプロモーションを取っていたかを考える。	4 時間
第3回 ②戦略「コトラーのマーケティング3.0」価値主導のマーケティング 世の中は激変し、気候変動で災害は急増、環境汚染は深刻、経済成長は鈍化、そして同時進行で急速なデジタル化が進行している。コトラーのマーケティング3.0は、我々が直面する社会・経済・環境の劇的変化による課題を解決するものを示唆しているため、講義にて解説する。	消費者の成熟化により、ニーズを満たすだけでは商品が売れなくなっている。同じ商品や値段なら「環境にやさしい」や「フェアトレード」商品に惹かれる理由は何かを考える。	4 時間
第4回 ①ブランドと価格「ブランド論」資産価値としてのブランド	身近にある商品で、同じ商品でありながら、ブランドロゴが入ることなぜ価値が上がるかを考える。	4 時間

	<p>ブランドの語源は、牧場で自分の牛を区別するためにつけた焼き印である。ビジネスでも大事なことは、消費者の脳内で自社商品と他社商品を区別することとなる。そのため、消費者の脳内にブランドを構築するための法則について解説する。また、同時に過去のさまざまなマーケティング活動の結果獲得した、ブランドが得た「ブランド資産価値」についても説明する。</p>	
第 5 回	<p>②ブランドと価格「価格戦略論」高付加価値戦略</p> <p>今後の日本企業は、高付加価値戦略を考える必要がある。そのためには、キーワードである、「パワープライサー」という概念を理解する必要がある。これは、市場に価格決定をゆだねず、顧客の要望に応える価値を作り出し、主体的に正しい値付けをすることをいう。価格を消費者ではなく、企業が値付けをすることで売り上げも利益も大きく増えるため、ブランドの創出と同時に発生する、「価格戦略」という重要性について説明する。</p>	<p>身近な商品で「値上げも値下げもしない」商品を探し、その商品にはどのようなブランド戦略と企業のメッセージが含まれているかを考える。</p> <p>4 時間</p>
第 6 回	<p>サービス・マーケティング「真実の瞬間」サービス・エンカウンター</p> <p>顧客が心を射止められる瞬間を「真実の瞬間」と呼ぶ。対応が事務的で、問題が起こるたびに現場従業員が上司に許可を得て、貴重な時間を無駄にする企業では消費者の支持は得られない。サービス業にとって、価値を作り出すのは最前線の従業員であり、現場には意思決定と責任を委譲し、情報をすべて公開する必要性を説明する。</p>	<p>飲食業やテーマパークなど、これまでに受けた接客で感銘を受け、好意的に捉えている企業について考える。</p> <p>4 時間</p>
第 7 回	<p>マーケティング・コミュニケーション「売る広告」ウェブマーケティング</p> <p>「効能」にコミットしない広告では商品は売れない。①広告は効能を語り、②ブランドイメージを与え続け、繰り返すなどの必要性がある。広告の本質から「売れる商品に必要な広告方法」を考察する。</p>	<p>テレビやインターネットで流れる広告を参考に、「目に留まる広告」と「目に留まらない広告」の違いについて考える。</p> <p>4 時間</p>
第 8 回	<p>マーケティングと社会調査法</p> <p>身近な商品や企業、ブランドなどを一つ取り上げ、その市場の命題（テーゼ）と反命題（アンチテーゼ）を仮説として立てる。テーゼとはすでに資料やデータの裏付けにより主張されていることであり、アンチテーゼはそのテーゼに対して提示される反論や代案のことをいう。次回から13回までに行うプレゼンテーションとして、グループごとにテーゼ・アンチテーゼを考え、それをGoogle formを使って実証する。</p>	<p>発表グループごとに、プレゼンテーションで取り上げる事例のテーゼとアンチテーゼ、ならびに実証するアンケート項目とその方法について話し合う。</p> <p>4 時間</p>
第 9 回	<p>①チャネルと販売「ショッピングの科学」、マーケティング演習①グループ発表</p> <p>ショッピングの科学とは、買い物客が購入したくなるように店や商品を変える考え方をいう。かつて企業は広告を使って消費者に「この商品を買いたい」と思わせ、来店させて売っていた。しかし、本当に買ってもらえる商品とは、店のフロアで売られているものであり、消費者は何を買うかを現場で決めている。</p>	<p>広告商品を見て購入したい商品と試食や試着した上で購入したい商品の比較をする。</p> <p>4 時間</p>
第 10 回	<p>②チャネルと販売「小売り再生」、マーケティング演習②グループ発表</p>	<p>リアル店舗で商品を試着、試乗し、ネットで購入を促している企業を調べる。</p> <p>4 時間</p>

	<p>「ネットで服は売れない」と言われていたが、それはもはや過去の話となった。むしろ、現代では家庭向け食材から家具に至るまで、ネットで売れないものはない。そのため、店舗は「モノを売る場所」から商品に興味を持たせる「メディア」へと変わっていった。次世代におけるリアル店舗とオンライン上の店舗の在り方を説明する。</p>		
第 11 回	<p>③サブスクリプション「継続購入」、マーケティング演習③グループ発表</p> <p>サブスクリプションとは「顧客が購入し続ける長期的な関係をつくるビジネスモデル」のことであり、顧客と直接つながる「サブスク化」は企業経営を劇的に変える。新聞・雑誌の定期購読やガス・水道・電気の定期契約も、広い意味でのサブスクとなる。新たなステージに進化したサブスク化によるビジネス高収益化について解説する。</p>	サブスク化している身近な商品を調べる。	4 時間
第 12 回	<p>④カスタマーサクセス「顧客離反防止」、マーケティング演習④グループ発表</p> <p>「カスタマーサクセス」とは、顧客がサービスを使うときの問題を先回りして解決して顧客が成果を上げられるようにし、顧客離反を防ぐ考えのことをいう。サブスクリプションで使われる用語であり、販売後の顧客に対して徹底して世話をすることで、ユーザーにサービスをもっと使ってもらうことを指す。顧客の成功を実現する会社の重要性について説明する。</p>	長いこと続けられるサブスクリプションとすぐにやめてしまうサブスクリプションの差は何かを考える。	4 時間
第 13 回	<p>⑤成約のコード「デジタル・マーケティング」、マーケティング演習⑤グループ発表</p> <p>デジタル・マーケティングとはスマホ広告で見込み客を発掘する手法をいう。しかし、見込み客への最後の一手が足りず、なかなか成約出来ない企業が多々ある。そこで、デジタル・マーケティングで発掘した見込み客に対して電話のように絞り込んでアプローチすれば、高い確率で制約できる。デジタル・マーケティングとその後の「インサイドセールス」にも焦点を当てて解説する。</p>	ネット広告やキャンペーンなどで個人情報登録した後、電話などでのインサイドセールスがあったことを思い出し、どのような制約への手法が行われていたかを考える。	4 時間
第 14 回	<p>総復習と小テスト</p> <p>ここまでのマーケティングに関わる内容を総復習としてまとめる。また、それらのアウトプットとして、小テストを行う。</p>	これまでのマーケティング内容を復習しておく。また、プレゼンテーション内容についてレポートにまとめておく。	4 時間

521

授業科目名	経営統計入門				
担当教員	海野大				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手通信事業者で新サービス開発，新規事業立ち上げ，マーケティング・リサーチ／顧客データ分析，情報システム企画・要件定義・プロジェクト管理に従事。（全14回）				

### 授業概要

今日では、企業の活動や意思決定はデータに基づいて行われることが当たり前になっています。合理的な企業経営や意思決定を行うためには、データを適切に選択・加工し、必要な情報を抽出し、分析と解釈をしなければなりません。統計学はこの一連のプロセスを体系化した学問です。この授業では、統計的なものの考え方やデータの読み方、データの分布、分布を1つの数字で代表する方法、統計的な推測の方法、仮説検定の考え方について学んでいきます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

統計的なものの見方，記述統計（クロス集計，ヒストグラム，平均・分散，相関関係），確率論，推測統計（区間推定，仮説検定）等の基本的な統計理論

#### 目標：

データから情報や知見を得るための考え方や手法，データの可視化，代表値や相関係数の概念と計算方法，区間推定や仮説検定の概念，目的，計算方法について理解し，実際に計算できるようになる。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

データから統計的な手法を用いて課題を発見し，分析することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業の理解度

： 授業中に実施する課題により評価します。

50 %

期末試験

： 講義内容に関する基礎知識問題と計算問題を出题し，全体的な理解度によって評価します。

50 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

福田(2016)『経営のための統計学入門』ミネルヴァ書房,  
栗木, 綿森, 田中(2016)『統計学基礎』共立出版

## 履修上の注意・備考・メッセージ

教材の配布や課題の提出などにGoogle Classroom を使用します。  
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習してください。  
演習の計算で必要となるので、ルート計算機能付きの電卓を必ず持参してください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期：火曜日 3 時限 後期：水曜日 5 時限  
場所： 研究室（西館 3 階）  
備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントをとるようにしてください。  
メールアドレス：unno@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>イントロダクション～統計学への招待</b>  統計学とはどのような学問で、社会においてどのように活かせるのか学びます。 統計データにはどのようなものがあり、それらがどのように収集され作成されるのかについて学びます。	配布された資料の復習。総務省統計局のホームページで、公表されている統計データにどのようなものがあるか調べる。	4 時間
第 2 回 <b>統計的なものの見方・考え方</b> 与えられたデータを理解し、解釈するための統計的な見方や考え方を学びます。	統計的なものの見方・考え方の復習	4 時間
第 3 回 <b>記述統計（1）データの収集と読み方</b> データがどのように収集されるのか、データをどのように読み解けばよいかについて学びます。	データの収集と読み方の復習	4 時間
第 4 回 <b>記述統計（2）データを可視化する</b> データを表やグラフによって可視化する方法を学びます。	データの可視化の復習	4 時間
第 5 回 <b>記述統計（3）データの分布を見る</b> データの分布という考え方や分布をグラフで表現する方法について学びます。	データを分布として捉える考え方の復習	4 時間
第 6 回 <b>記述統計（4）データの分布をまとめる</b> データの分布を一つの数字で代表する方法について学びます。	平均や分散の考え方と計算方法の復習	4 時間
第 7 回 <b>記述統計（5）データの関係を知る（相関関係）</b> 2つ以上の変量の間に関連のしかたを捉える方法を学びます。	データの相関関係と因果関係の復習	4 時間
第 8 回 <b>推測統計（1）確率と確率変数</b> 推測統計を学ぶために必要な確率の考え方について学びます。	確率、確率変数の考え方の復習	4 時間
第 9 回 <b>推測統計（2）データの確率分布を推測する</b> 統計学の基礎をなす大数の法則と中心極限定理の考え方や、代表的な確率分布である正規分布を学びます。	正規分布の復習	4 時間
第 10 回 <b>推測統計（3）母平均を推測する</b> 標本データから母集団の平均を推測するための区間推定の考え方と方法について学びます。	1標本の区間推定の復習	4 時間
第 11 回 <b>推測統計（4）母平均の差を推測する</b> 2つの標本から母集団の平均を区間推定する方法について学びます。	2標本の区間推定の復習	4 時間
第 12 回 <b>推測統計（5）統計的仮説検定とは</b> ある出来事についての仮説の確からしさを判定する方法である仮説検定について学びます。	1標本の仮説検定の復習	4 時間
第 13 回 <b>推測統計（6）2標本の仮説検定</b> 2つの標本について仮説検定する方法を学びます。	2標本の仮説検定の復習	4 時間



## 第 14 回 推測統計のまとめと復習

推測統計全体の復習

4 時間

推測統計に関する講義全体を振り返るとともに、補足説明を行います。

---

521

授業科目名	特別リレー講義（ザ・プロフェSSIONナルズ）				
担当教員	平賀富一				
学年・コース等	1年・2年・3年・4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手保険企業、外務省、シンクタンク2社、格付機関などで企業戦略、国際事業、日本の外交、日本のIT戦略、世界各国の政治経済分析、本邦及び海外の企業の分析等を担当（平賀：全14回）なお本講義に招聘する各講師は、担当する当該授業テーマに関する専門家です。				

### 授業概要

本授業は、外務省の大使経験者、SDG専門家のシンクタンク所長、大手航空会社の役員経験者の客員教授、および国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所よりの派遣講師と、国際的な知見や経験の豊かな方々を講師に迎え、日本と世界の外交の現状、国際協力やグローバル展開する航空会社の取り組みやSDGs、航空事業や観光業の動向等の重要課題についての理解を深め視野を広げることを目標とします。世界情勢の動向を知り、国際政治や経済、グローバル企業等に関心を深め、広い視点から物事を考察する習慣を習得できるよう授業を展開します。さらに各回の講師となる一流の専門人材（ザ・プロフェSSIONナル）から、人生やキャリアにおける重要点、転換点、エピソード、メッセージなどを直接伺うことは受講者にとって得難い貴重な機会となります。受講者の理解を促進する観点から、本学教員の平賀が導入、解説や補足等を行います。参加メンバーには、単なる受け身の受講姿勢ではなく、積極的な発言・質問、グループ討議へ参画を求めますので、その意欲がある方の参加を求めます。本授業はハイブリッド授業（各講師「オンデマンド授業」と「教室での対面授業」の隔週実施）を予定します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

世界・日本における重要点・課題や対処方法等を理解する。

#### 目標：

世界・日本における重要点・課題や対処方法等の知識・考え方をベースに各自の業務の実施や課題の対処に活用・応用できる。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

世の中や身近にある重要点・課題に関し、自ら情報収集・分析し、対処に応用・活用できる。

2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

世界・日本の重要事項・課題について、グループ討議や、意見・コメントの発信で、的確にコミュニケーションできる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

参加メンバーには、単なる受け身の受講姿勢ではなく、積極的な発言・質問の姿勢と取り組みを求めます。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

加えて、各講師独自の方針・方式によるフィードバックがあります（各講師から紹介予定）。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。特別な事情のある場合を除き、全授業回数の過半数以上の出席（オンライン授業は、リアクションペーパーの提出を出席とみなします）がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」としますので、この点を十分に理解し履修登録してください。各分野のプロフェッショナルである講師に対し、履修者一人一人が礼節をもって接することが求められます。積極的な発言等授業への貢献は歓迎しその内容に応じて加点評価します。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意しますが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し警告、次いでレッドカードを渡し減点対象とします。特に授業の進行と、周囲の受講者の迷惑行為となる私語・携帯電話の通話には厳しく対応します。リアクションペーパーの提出期限は原則として毎回の授業後1週間とし、それ以降の提出は各回1点減点となります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業各回のレポート（リアクションペーパー）	70 %	：	各回の授業の理解度を示す内容、文章表現力を評価します。
期末の振り返りレポート	30 %	：	講義全体で習得した知識や考え方に関する説明力・文章表現力を評価します。

#### 使用教科書

特に指定しない

#### 参考文献等

各講師が、それぞれの講義開始の前までに十分な期間を確保しつつ、課題として読むべき資料、参考とすべき資料などを案内します。

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・吉川元偉 客員教授（国際基督教大学特別招聘教授、元国連大使・常駐代表）
- ・野田 仁 客員教授（前駐ルーマニア特命全権大使）
- ・川村雅彦 客員教授（サンメッセ総合研究所 所長・首席研究員、ニッセイ基礎研究所 客員研究員）
- ・岡田晃 客員教授（ANA総合研究所顧問、同研究所前社長）
- ・国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所（講師名は本講義開始前までに決定）
- ・平賀富一（大阪成蹊大学、ニッセイ基礎研究所 客員研究員）

#### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限
場所：	西館3階44研究室
備考・注意事項：	客員教授等非常勤の講師にはメール等で質問可能とします（必要に応じて平賀がアシスト予定）。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 講義の進め方と受講に当たっての基礎的な情報に関するレクチャー 外交交渉、外交における政府の役割、SDGs、国際航空運送と航空事業、国連世界観光機関（UNWTO）、アジア新興市場について、各講師による授業のベースとなる基礎的な情報や論点案、基本文献などを紹介する。	授業内容を復習し、各自の問題意識などを整理する。	4 時間
第2回 各講師の講義の基本的な情報の収集・調査や質問事項の検討・抽出 前回の授業内容を踏まえて、基本的な情報などを各自が調べ、各講師の授業での質問事項を検討し・抽出する。	この時点における各講師への質問事項案などを検討し、その後、次回授業に関する指定資料を読む。	4 時間
第3回 日本の抱える領土問題（元国連大使によるレクチャーと課題の提示）	指定された参考文献を事前に読んで課題・予習事項を学習する。おく。	4 時間

	<p>下記の項目に関するレクチャーを予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本のおかれた位置を知る。日本の地政学的な位置づけを学ぶ。</li> <li>2. 国家の領域とは？国際法の基礎知識を学ぶ。</li> <li>3. 日本の領土をめぐる問題（以下の4つの問題についての歴史と現状）       <ul style="list-style-type: none"> <li>その1：奄美群島、小笠原諸島、沖縄諸島（注：解決済み）</li> <li>その2：北方領土</li> <li>その3：竹島</li> <li>その4：尖閣諸島</li> </ul> </li> <li>4. 日本の抱える領土問題の解決は可能かについて考える。</li> </ol> <p>次回の発表のための参考文献を提示し、課題および予習事項を説明する。</p>		
第4回	<p><b>日本の抱える領土問題（課題の発表・討議と質問への回答）</b></p> <p>第3回の内容の補足解説を行う。与えられた課題について個人で考え、グループで討議し発表する。</p>	日本の抱える領土問題について復習し、次回の講義の指定資料を読み課題を検討する。	4 時間
第5回	<p><b>第二次世界大戦後の世界における協調と分断の流れ—冷戦期、グローバル化、その後(主要点のレクチャーと課題の提示)</b></p> <p>現在大学生である受講生が生きてきたグローバル化の進んだ世界、より最近の時点での世界の動向、またグローバル化以前の冷戦期等の世界を比較して、各時代の特徴や世界の枠組みの大きな潮流の変動、それらの背景等についての理解を深め、現在の国際情勢の立体的な理解やそれに対応する視点の体得をめざす。またさらに、現在の国際社会の動向の中で日本あるいは関心により他の主要国のとるべき立場について、次回に向けた検討課題とする。</p>	世界における協調と分断の流れについて復習し、課題について資料を調べ検討する。	4 時間
第6回	<p><b>第二次世界大戦後の世界における協調と分断の流れ—冷戦期、グローバル化、その後（課題の検討・討議と補足解説・質問への回答）</b></p> <p>必要に応じ、第5回の内容の補足説明を行う。また、第5回にあげた課題について、また加えて、さらに関心が及ぶ場合には、国家と異なるレベルにおいても必要と考えられる臨み方等についても、個人で考え、またグループで議論して、発表する。</p>	世界における協調と分断の流れについて復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4 時間
第7回	<p><b>グローバル・イシューとしてみたSDGsと企業の役割(主要点のレクチャーと課題の提示)</b></p> <p>2030年までに持続可能な地球社会の実現をめざすSDGsについて、17の各ゴール（到達したい姿）と現状のギャップを理解する。そのうえで特定のゴールについて、CSR（自社ビジネスに伴う社会環境へのインパクトに対する責任）とCSV（自社の強みによる課題解決型のビジネス開発）を、企業の業種特性に応じた先進事例を紹介する。次回のグループ討議・発表の段取りを伝える。</p>	SDGsの重要点について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4 時間
第8回	<p><b>グローバル・イシューとしてみたSDGsと企業の役割（課題の検討・討議と補足解説・質問への回答）</b></p> <p>グループごとに指定した仮想の企業（製造業、サービス業、ICT業、金融業）について発表・質疑を行う。その後、講師よりコメントする。併せて、サステナビリティに関する企業の経営者や従業員の心構えも解説する。</p>	SDGsの重要点について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4 時間

第 9 回	<p><b>国際航空輸送のこれまでと今後の展望(主要点のレクチャーと課題の提示)</b></p> <p>国際航空輸送の変遷、島国日本における国際航空について、コロナ禍の現状も踏まえ、その将来像を説明する。次回の授業でグループ討議・発表を行うための予習事項を提示する。</p>	国際航空運送や航空会社の経営について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4 時間
第 10 回	<p><b>国際航空輸送のこれまでと今後の展望(課題の検討・討議と補足解説・質問への回答)</b></p> <p>課題についての討議・発表。その後、補足説明および質問への回答を行う。ビジネスパーソンとしての心構えなどの講話も含める。</p>	国際航空運送や航空会社の経営について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4 時間
第 11 回	<p><b>国連世界観光機関 (UNWTO) と持続可能な観光(主要点のレクチャーと課題の提示)</b></p> <p>UNWTO (本部) 及びUNWTO駐日事務所の概要・活動及び、国際観光動向を解説。また、UNWTOの推進する持続可能な観光について国内外の事例を用いて紹介。関連課題の提示等を行う。</p>	UNWTOや持続可能な観光について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4 時間
第 12 回	<p><b>国連世界観光機関 (UNWTO) と持続可能な観光(課題の検討・討議と補足解説・質問への回答)</b></p> <p>課題の討議・発表、総括的な解説、質疑応答などを行う。</p>	UNWTOや持続可能な観光について復習し、次回の講義の指定資料を読む。	4 時間
第 13 回	<p><b>アジア等新興国を巡る情勢と日本(主要点のレクチャーと課題の提示)</b></p> <p>アジア諸国の経済状況と日本のポジション、日本との関係について解説、関連情報の事前学習、課題の提示、質問項目の検討。</p>	新興国を巡る情勢と日本の関係等について復習し、課題について資料を調べ検討する。	4 時間
第 14 回	<p><b>アジア等新興国を巡る情勢と日本(課題の検討・討議と補足解説・質問への回答)、本講義全体のまとめ</b></p> <p>課題に関する(グループ)討議と発表、補足解説、質問への回答。本講義全般(1-14回)に関する振り返りとまとめを行う。</p>	新興国を巡る情勢と日本の関係等について復習し、その後、本講義全体で学んだことや考えたこと等の振り返りを行う。	4 時間

521

授業科目名	人文地理				
担当教員	小島大輔				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本授業のテーマは、人文地理学とはどのような学問か。どのような見方・考え方で、どのようなことに、どのようにアプローチするののかということを出発点として、人文地理学を学ぶと何がわかり、どんなことの役に立つのかという問いに様々なテーマの事例を通して答えることである。

そのため、まず人文地理の資料・表現方法として最も重要な地図の基礎的事項を学ぶ。次に、環境、資源、観光などのテーマについて、様々な情報を駆使して地域を読み解き、事象の分布やまとりにみられる空間的な規則性・傾向性とその要因を考察する人文地理学の知恵と技を学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

地理学の学問体系（系統地理学、地誌学、自然地理学、人文地理学などの関係）、地域的特色を理解するための読図技能  
人文地理学の用いる基礎的な専門用語とその概念

#### 目標：

人文地理学の学問的な位置付けを説明できる。  
人文地理学に関する基礎的な用語の使用法を区別できる。  
地図の読図に関する基礎的な作業ができる。

#### 汎用的な力

1. DP 8. 他者とのコミュニケーション

人文地理学の見方・考え方をを用いて、地域の事象について自らの考えを述べるができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業時に取り組む課題

- ： 読図作業は、作業への取り組み度合、記述適切さ・具体性・独自性などから評価する。  
地域の事象に対する自らの考えは、人文地理学の見方・考え方の使用の有無および記述の具体性・独自性などから評価する。

40 %

定期試験

- ： 人文地理学の学問体系については、地理学における人文地理学の位置付けを論理的に説明できるかを評価する。

人文地理学に関する基礎的な用語については、その使用法を区別できるかを評価する。

60 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

『みわたす・つなげる人文地理学』（上杉和央・香川雄一・近藤章夫編、古今書院(2021)）  
『現代人文地理学の理論と実践 - 世界を読み解く地理学的思考』（ハーバード、フィル・キチン、ロブ・パートレイ、ブレンダン・フラー、ダンカン著、山本正三・菅野峰明訳、明石書店(2018)）  
『人文地理学への招待』（竹中克行編、ミネルヴァ書房(2015)）  
『現代社会の人文地理学』（稲垣 稜、古今書院(2014)）  
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 4限  
場所： 西館 4階研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>イントロダクション：人文地理学とは何か</b>  地理学の学問体系における人文地理学の位置付け、人文地理学の見方・考え方について学びます。	予習：シラバスを通読しておいてください。復習：イントロダクションの配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4 時間
第 2 回 <b>地図表現とその活用</b>  メンタルマップ、世界地図、地球儀など世界を大観する方法の違いを学びます。	予習：大陸、海洋、主要な国・都市などの地表の構成を確認しておいてください。復習：「地図表現とその活用」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4 時間
第 3 回 <b>地図が創り上げた世界観と歴史</b>  地図の発達とそれらが創り上げた世界観を概観し、世界を大観する際の注意点について考えます。	予習：あなたが最も適切だと考える世界地図を用意し、その理由を考えてください。復習：「地図が創り上げた世界観と歴史」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4 時間
第 4 回 <b>地形図の読図</b>  地形図に関する基礎的事項を確認し、その読図作業を通じて、地域的特色を見出す視点を学びます。	予習：国土地理院のHPで地形図を閲覧し、自身の居住地周辺の地形図表現を確認しておいてください。復習：「地形図の読図」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4 時間
第 5 回 <b>環境論</b>  文化地理学の環境論の視点から、人間活動と環境の関係について考えます。	予習：世界にはなぜ「豊かな地域」と「貧しい地域」が存在するのか自身の考えをまとめておいてください。復習：「環境論」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4 時間
第 6 回 <b>環境問題</b>  人間と自然環境との関わりを考える基礎的概念の地球環境システムについて学び、環境問題の整理の方法について学びます。	予習：「環境問題」と聞き最初に思っていたものについて調べておいてください。復習：「環境問題」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4 時間

<p>第 7 回 <b>エコロジーの実践と葛藤</b></p> <p>環境保全型農業成立のしくみからエコロジー実践の条件について、地域固有の資源の議論からエコロジーの葛藤について考えます。</p>	<p>予習：環境保全を目指した農業の例を調べておいてください。復習：「エコロジーの実践と葛藤」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 8 回 <b>地域資源</b></p> <p>地域資源管理の問題および食文化の地域資源化のもたらす結果について考えます。</p>	<p>予習：「資源」と聞いて思いつくものなるべく多くリストアップしておいてください。復習：「地域資源」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 9 回 <b>観光と地域</b></p> <p>観光地のライフサイクルモデルから、観光と地域の関わりについて学びます。</p>	<p>予習：観光地の定義について調べておいてください。復習：「観光と地域」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 10 回 <b>地域イメージ形成と地域の変容</b></p> <p>地域イメージ形成過程およびその影響など、地域イメージのもたらす役割について学びます。</p>	<p>予習：これまでに訪れたことのない国・地域をあげ、それらにどのようなイメージを持っているかを整理しておいてください。復習：「地域イメージ形成と地域の変容」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 11 回 <b>余暇・観光における空間的行動（ゲスト）</b></p> <p>余暇活動・観光行動の空間的特性から、観光地空間、集客圏、観光地間の関係について学びます。</p>	<p>予習：ここ数年で余暇活動・観光で訪れた場所をリストアップしておいてください。復習：「余暇・観光における空間的行動（ゲスト）」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 12 回 <b>余暇・観光における空間的行動（ホスト）</b></p> <p>旅行商品の供給体系の変遷から、観光地間の空間的な相互関係の特徴について学ぶ。</p>	<p>予習：web等でパッケージツアーのパンフレットを一読し、そこであげられている観光地にどのような特徴があるのかを考えておいてください。復習：「余暇・観光における空間的行動（ホスト）」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 13 回 <b>観光空間の形成</b></p> <p>ディズニー化という視点から、近年の観光空間形成の原理や特徴について考えます。</p>	<p>予習：ディズニー・テーマパークが顧客を引き付ける理由を考えておいてください。復習：「観光空間の形成」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 14 回 <b>授業のまとめ</b></p> <p>授業全体のまとめを行い、人文地理学の見方・考え方で事象を考える意義を確認します。</p>	<p>予習：シラバスと配布資料を通読し、これまでの授業資料からキーワードを抜き出し、整理しておいてください。復習：これまでの講義資料の整理、キーワードリストの作成など試験の準備学修をしてください。</p>	<p>4 時間</p>



521

授業科目名	短期海外研修				
担当教員	松田充史・坂井純子・デイヴィス恵美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期（集中）	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	(デイヴィス) 大手日系電機メーカーのイギリス現地法人において、ヨーロッパ圏内の販社営業を担当し、販売戦略などに関する資料作成やプレゼンテーションも担当した。 (坂井) 海外にホテルを所有する日本企業の国際事業部にて勤務経験をもつ。				

### 授業概要

ニュージーランドでホームステイしながら英語学校に通い、文化的・言語的背景の異なる人々との英語でのコミュニケーション実践力を高めます。また、自文化、他文化、文化的背景の違う人々との協働について実際の観察や体験をとおして学びます。研修期間は約2週間です。出発前には研修に備えるための事前学習を行います。帰国後には英語での報告書とプレゼンテーションにより、自らの体験を振り返り、共有しあうことで、理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

英語コミュニケーション能力

英語だけの生活において、相手を理解しようと努める姿勢と、自分の言いたいことをきちんと伝える力を身につける。

2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

異文化への理解

自分とは異なる考え方、習慣があることを知り、違いを尊重することができる。

#### 汎用的な力

1. DP 8. 他者とのコミュニケーション

お互いを正しく理解するために、逃げないで英語を使って話そうとする姿勢を身につける。

2. DP 9. 他者との協調・協働

海外でのトラブルや危険を避けるために、集団行動におけるルールを守り、自分の役割をきちんと果たすことができる。

3. DP10. 忠恕の心

他文化を自文化と同じように敬い、尊重する気持ちを持つことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク
- ・その他(以下に概要を記述)

2週間、ニュージーランドにて、ホームステイしながら、語学学校に通学し、主体的に学ぶ体験をします。事後報告書を提出し、後期のスピーチ大会での発表へとつなげていきます。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

事前学習にも原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

## 成績評価の方法・評価の割合

## 評価の基準

現地校での取り組み	:	現地校での授業および生活に対して主体的に、責任ある行動で学んだか、3週間での成長がみられるかという観点から、現地学校からの報告と成績評価に基づいて評価する。	60 %
期末レポートと発表	:	期末レポート（報告書）およびプレゼンテーションの質、量について、設定したルーブリックに基づいて評価する。提出期限に遅れた場合には減点の対象となる。	25 %
事前学習への取り組み	:	事前学習に積極的かつ主体的に取り組んでいるか、出された課題や書類には期限を守り、適切に対応できているかという観点から評価する。	10 %
英語プレゼン大会への出席	:	後期に行われる英語プレゼンテーション大会の観覧をし、出場者のパフォーマンスから学びぶ。	5 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

神田外大×東京外大「英語モジュール」

## 履修上の注意・備考・メッセージ

ニュージーランド研修の準備として、多くの書類を期日までに提出することが求められます。また、重要書類を帰国日まできちんと管理する必要があります。緊張感をもつてのぞんでください。もちろん、出発までの体調管理も非常に重要です。心配がある方は早めに相談してください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	実習内
場所：	教室
備考・注意事項：	事前準備実習授業での連絡相談

## 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 短期海外研修の目的の理解 ニュージーランド研修の概要と目的の理解 出発までのスケジュール 研修先のスクールについて 提出が必要な書類について	必要書類の準備や作成、自己紹介の練習	2 時間
第 2 回 ニュージーランドについて  ニュージーランドについての基礎知識 オークランドについての調査計画 書類の提出と確認 世界の英語 (World Englishes) について	ニュージーランドについての調査、緊急連絡先の報告	2 時間
第 3 回 オークランドについて  グループの決定と自己紹介 オークランド調査内容の発表 渡航に役立つ英語表現 目標シートについて	研修にあたっての質問リスト作成、目標シート	2 時間
第 4 回 現地生活に備える 現地生活における注意事項 ホームステイの心得 荷物の準備の仕方 目標シートの提出	現地の生活に必要な情報収集や準備	2 時間
第 5 回 課題の理解と危機管理	保険の支払いやアプリ登録、現地調査の計画	2 時間

	危機管理講習 滞在中および帰国後の課題の理解 1) 振り返りワーク 2) 現地調査 3) 英文報告書 4) プレゼンテーション		
第 6 回	<b>出発前最終確認</b> 空港での集合、グループ移動、確認、報告について 保険の確認 ホームステイ先の確認 航空券 (eチケット) の見方、他	出発のための準備	2 時間
第 7 回	<b>渡航とホームステイ</b> 空港での出発前最終ガイダンス グループでの渡航 ホストファミリーと出会い ホームステイ先のルールの理解 到着の報告	振り返りワーク (渡航～到着)	2 時間
第 8 回	<b>語学学校でのオリエンテーション</b> 語学学校までの通学方法の理解 語学学校でのオリエンテーション内容の理解と書類記入 プレイスメントテストおよび受講クラスの決定	振り返りワーク (最初の週末とオリエンテーション)	2 時間
第 9 回	<b>現地での第 1 週目授業</b> 1日 5 時間の英語集中授業とホームステイ体験 ニュージーランドの学校文化、英語での教室内の指示、生活に必要な用語などについて学ぶ オークランドの主要な場所を訪問し都市の特徴をつかむ。交通機関のしくみを理解する	現地校課題、振り返りワーク (第1週目の生活)	2 時間
第 10 回	<b>現地での第 2 週授業</b> 1日 5 時間の英語集中授業とホームステイ体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ 仲間づくりのための積極的なコミュニケーションにこだむ オークランドの多様な人種、文化について学ぶ	現地校課題、振り返りワーク (第2週目の生活)	2 時間
第 11 回	<b>現地での第 3 週授業</b> 1日 5 時間の英語集中授業とホームステイ体験 分からないことについては進んで尋ね、理解していく姿勢を学ぶ 仲間づくりのための積極的なコミュニケーションにこだむ オークランドの多様な人種、文化について学ぶ	現地校課題、振り返りワーク (第3週目の生活)	2 時間
第 12 回	<b>現地調査 (フィールドワーク)</b> 出発前にたてた計画に基づき、現地でのフィールドワークやインタビューに取り組む	調査内容の記録	2 時間
第 13 回	<b>帰国と課題提出のための準備</b> ホームステイ体験の締めくくりとファミリーへのあいさつ 帰国に必要な書類の確認 グループでの確認、空港内移動、報告、帰国  課題提出に向けて調査内容の整理 補足調査 プレゼンテーションアウトラインの執筆	振り返りワーク (ホームステイの締めくくり～帰国)	2 時間
第 14 回	<b>課題の作成</b> 調査レポートの作成 英文報告書の作成 プレゼンテーション原稿の作成 プレゼンテーション用のスライドの作成	個別指導教員からアドバイスを受ける	2 時間

521

授業科目名	国際観光概論				
担当教員	金蘭正				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本授業は、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、旅行、宿泊、運輸業をはじめとするさまざまな観光ビジネスと地域との関わりやその果たす役割について包括的に理解を深めることを目標とする。わが国では、観光を通して交流人口を増やすことによる地域活性化や経済波及効果への期待が高まっている。一方、地方では外国人旅行者の受け入れ体制づくりが行われているが、観光産業における経営の後継者不足や若者の地方離れによる人手不足が顕著である。こうしたわが国の観光ビジネスの可能性と課題について理解を深め、解決策を考えていく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

- 観光の歴史・専門用語・仕組みの理解  
観光に関する知識

#### 目標：

- 観光とは何かについて、観光の専門用語・現代社会における観光の仕組みについて基礎知識を得る。  
インターネットや書籍の情報をもとに、観光業界の特徴的な動向を理解できる。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

- 常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握することによって、観光における課題や今後のあり方について考察することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
「試験（小テスト、中間テスト、定期試験）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

- |           |   |   |
|-----------|---|---|
| 小テスト・受講態度 | ： | 毎回の授業内容から出される小テストの答えを提出してもらい、平常点として成績に反映する。                 |
| 20 %      |   |   |
| 中間テスト     | ： | 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。 |
| 40 %      |   |   |

定期試験（筆記）： 観光学の基礎知識を用いて自身の意見を述べる問題。次の観点から評価する。1. 観光学の基礎知識の正しい理解、2. 現代の観光における問題点を指摘し、その解決のための案を探ることまでつなげられるのか

40 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国枝よしみ・岡田晃編著	・新しい観光学	・千倉書房	・2023年

## 参考文献等

前田 勇 編著 (2015) 『新現代観光総論』学分社  
 岡本 伸之 編著 (2001) 『観光学入門』有斐閣  
 岡本 伸之 編著 (2013) 『観光経営学 (よくわかる観光学)』朝倉書店

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限  
 場所： 研究室（西館2階）  
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。  
 アドレス：kim-r@osaka-seikei.ac.jp  
 メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>オリエンテーション・広がりつつある観光産業</b> 学習内容や評価方法、受講についての注意事項などについて説明したうえで、広がりつつある観光産業について学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4 時間
第2回 <b>「観光」の概念/歴史</b> 「観光」および観光に関連することばの意味と現代観光の基本的構造と構成要素について学びます。また、現代の観光がどのような社会的背景の中で発展してきたかについて観光の歴史を通して学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅行、マストツーリズム）	4 時間
第3回 <b>観光資源とニューツーリズム/持続可能な観光</b> 観光対象の基本的性格や観光対象の種類、対象の素材としての観光資源の定義や分類について学びます。また、ニューツーリズムの概念やそれぞれの定義について理解し、ニューツーリズム推進に関する取組について学びます。さらに、持続可能な観光とは何かについて理解してもらいます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニューツーリズム、持続可能な観光、デ・マーケティング）	4 時間
第4回 <b>旅行ビジネスの過去・現在・未来</b> 旅行がビジネスとして確立してきた歴史と背景について学びます。また、旅行ビジネスがもたらす交流創造（人的交流・地域交流）について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：トーマス・クック、FIT）	4 時間
第5回 <b>観光とテクノロジー</b> 観光関連分野の企業がテクノロジーを導入する目的やテクノロジーの急速な進化による観光関連産業や観光地での活用状況について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テクノロジー、OTA）	4 時間
第6回 <b>航空ビジネス</b>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：航空輸送事業、航空ネットワーク）	4 時間

	航空運送事業の特性や航空会社の組織と仕事について概観したうえで、航空業界の現状や将来について学びます。		
第 7 回	<b>ホテルビジネスの現状と今後の展望</b>  ホテルビジネスの概要と仕事の基本知識について理解するとともに、それぞれの職種で求められる知識やスキル、資格を明らかにし、ホテルを職業として選択した場合のキャリアパスについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅館業法、ホテルマネジメント）	4 時間
第 8 回	<b>今までの授業内容のReviewと中間テスト</b> 今迄の授業内容を振り返り、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4 時間
第 9 回	<b>テーマパークとイベント事業</b>  テーマパークの定義や遊園地との違い、その特性について学びます。また、観光におけるイベントの役割とイベントツーリズムについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テーマパーク、イベント）	4 時間
第 10 回	<b>ホスピタリティ</b>  ホスピタリティとは何か、なぜ重要なのかについて理解し、サービスとホスピタリティの違いについて学びます。さらに、航空運送事業の特性とホスピタリティの関係について理解したうえで、航空会社（ANA）の実践例を通して航空業界におけるホスピタリティを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピタリティ、接客過程モデル）	4 時間
第 11 回	<b>観光マーケティング</b>  経営学分野であるマーケティング理論を観光に応用し、観光業界に携わる企業の観光マーケティング活動について解説します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、SWOT分析）	4 時間
第 12 回	<b>観光政策/観光まちづくり</b>  観光分野において国や地方公共団体が、政治や行政を行う上での考え方や方針のことである観光政策について学びます。また、観光まちづくりとは何かについて理解したうえで、アフターコロナ時代に一層注目される観光まちづくりの考え方について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：DMO、体験交流型観光）	4 時間
第 13 回	<b>ブランドと観光</b>  ブランドについて理解し、観光におけるブランドの使われ方、そしてプレイスのブランドがその国、地域、場所にどのように貢献するのかについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランディング、ブランド・イメージ）	4 時間
第 14 回	<b>食と地域振興</b>  食とツーリズムに関連する、フードツーリズム、ガストロノミーツーリズム、アグリツーリズム、ワインツーリズム、スローフード、地産地消などのコンテンツについて学びます。また、食の地域資源を利用したまちづくりによる地域振興の事例を通して、食と地域振興との関連性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：フードツーリズム、地方創生）	4 時間

521

授業科目名	旅行ビジネス論				
担当教員	松田充史				
学年・コース等	1・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営マネジメントを担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。(全14回)				

### 授業概要

将来において経済成長を担うとされている観光産業において、日本と世界、地域と社会、人と人を結ぶ旅行業はその中心的役割を持っている。その旅行業について、旅行会社が果たしてきた役割や社会的価値に注目し、経営の面からその特性を明らかにする。グループワークでは、具体的な旅行商品造成に挑戦しその成果を共有する。また、最近注目の着地型観光、地域交流ビジネスについて、そして旅行業に求められる人材についての講義も含まれる。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
- DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

旅行産業におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解する  
旅行産業における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につける

#### 目標：

新しい時代の旅行産業を考察することができる。  
旅行業の職務に係る問題解決のためにその専門性を応用できる。

#### 汎用的な力

- DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

旅行ビジネスの課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

国内、海外旅行企画のグループ発表において、評価、コメントします。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験

： 試験の素点に基づいて到達度を評価する。

30 %

授業への参加	:	毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。	20 %
グループワークとプレゼンテーション	:	グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。	30 %
リアクションペーパー	:	毎回の授業の終わりに提出のレポートで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。	20 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
立教大学観光学部旅行産業研究会 編著	・旅行産業論（改訂版）	・日本交通公社	・2019年

## 参考文献等

随時紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・2年次で履修すること。
- ・日々のニュースから、観光に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限（13:10～14:50）
場所：	西館4階 松田研究室
備考・注意事項：	メールで質問等も受け付けます（matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp）。その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

## 授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の進め方：旅行業とは  授業の進め方、目標を説明する。「旅行」と「観光」の定義を踏まえた上で、旅行業の範囲を理解する。さらに旅行業の将来の姿を考察し、旅行業に求められる能力を理解する。	教科書、第1講、1章、2章、3章を読み、旅行業について基本的な定義と範囲を理解しておく。	4 時間
第2回 旅行業の社会的役割と存在意義  旅行業の歴史を踏まえ、旅行業の社会的役割と存在意義を理解する。以降毎回の授業の後半30分で行う旅行商品を企画するグループワークについて説明する。	教科書、第2講、1章、2章を読み、旅行業の産業としての自立過程を理解しておく。実際に旅行会社の店舗を訪問し、自身の興味ある国内旅行商品が入ったパンフレットを次回授業に持ち寄る。	4 時間
第3回 旅行契約形態と企画旅行商品について  旅行会社の企画する旅行商品を理解する。旅行商品とそのバリエーションを理解する。旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第1回）	教科書、第3講、1章、2章を読み、旅行会社にとっての企画旅行商品を理解しておく。グループワークの準備。	4 時間
第4回 旅行業の経営について  旅行商品の特性と旅行会社の経営特性を理解する。旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第2回）	教科書、第4講、1章、2章を読み、旅行会社の創る商品とその経営の特性を理解する。グループワークの準備	4 時間



第 5 回	旅行マーケットについて  時代とともに変化する国内旅行、海外旅行におけるそれぞれのマーケットと旅行商品を理解する。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第3回）	教科書、第5講、1章、2章を読み、国内、海外旅行のマーケットの変遷と現状を理解しておく。国内旅行企画発表会の準備をする。	4 時間
第 6 回	旅行マーケットの成長、成熟後の現代の抱える問題点について  旅行マーケットの時代を追っての変化と、旅行者の旅行形態の変化を理解し、その変化をもたらした要因を探る。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第4回）	教科書、第6講、1章、2章、3章を読み、旅行マーケットの現状と問題点を理解しておく。国内旅行企画発表会の準備をする。	4 時間
第 7 回	旅行会社のビジネス展開について（販売ルート）  旅行会社が具体的にどのような販売ルートを持っているかを理解する。 旅行商品企画グループワーク（国内旅行企画成果発表会）	教科書、第7講、1章、2章、3章を読み、旅行会社の店頭販売、メディア販売、インターネット販売について理解しておく。	4 時間
第 8 回	外部講師による講義：旅行業における公正競争規約（表示規約）企画商品の変遷  旅行業法と景品表示法の関連について理解し、実際の景品表示法違反などの事例から学ぶ。	実際に旅行会社の店舗を訪問し、旅行商品についての気づきを400字程度のレポートにまとめ発表できるようにしておく。授業後提出要。	4 時間
第 9 回	旅行会社のビジネス展開について（販売ターゲット）  旅行会社が具体的にどのようなターゲット設定、販売方法を取っているかを理解する。 企画旅行商品の変遷を踏まえ、現在と将来の戦略について理解する。また、後半の旅行企画のグループワークについての課題を考える。	教科書、第8講、1章、2章、3章を読み、旅行会社が販売のターゲットとする出張ビジネス、法人・教育旅行、MICEについて理解しておく。グループワークの準備。	4 時間
第 10 回	インバウンド事業について  昨今急激な伸びを示すインバウンドマーケットについて、その変遷と現状、ビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第1回）	教科書、第9講、1章、2章を読み、インバウンドビジネスについて理解しておく。 グループワークの準備。	4 時間
第 11 回	旅行会社の予約販売システムについて  旅行会社の予約販売システムと、世界の旅行関連システムを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第2回）	教科書、第10講、1章、2章を読み、旅行会社の予約販売システムの変遷と、航空会社の予約システム等の世界の旅行関連システムを理解しておく。グループワークの準備。	4 時間
第 12 回	旅行マーケットのグローバル化について  グローバルな視点での旅行産業の動向と、世界の旅行会社のビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第3回）	教科書、第11講、1章、2章、3章を読み、旅行会社のグローバル化について理解しておく。グループワークの準備。	4 時間
第 13 回	地域観光について  着地型観光、地域交流ビジネスにおける旅行会社の役割を理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画成果発表会/前半）	教科書、第13講、1章を読み、地域における観光による6次産業化の概念を理解しておく。海外旅行企画成果発表会の準備をしておく。	4 時間

第 14 回 旅行産業の危機管理と社会的価値について	教科書、第13講、2章、3章を読み、旅行産業における危機管理と、社会的価値について理解しておく。海外旅行企画成果発表会の準備をしておく。	4 時間
観光における危機管理の特徴と、旅行会社の役割を理解する。旅行産業の教育的・社会的価値について理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画成果発表会/後半）		

521

授業科目名	観光政策論				
担当教員	原田弘之				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

### 授業概要

国や当該地域の観光を振興するための観光政策について学びます。前半は基礎編として、国や地方の観光政策の変遷や現状、実例を学んだ上で、近年の重要トピックスとして食・お土産、宿泊、案内人等に関する政策や取組施策等について学びます。後半は、それらの学びを踏まえて、複数の受講者によるグループワークで、教員が選定する地域を対象として、観光情報のリサーチや分析等を踏まえて、観光戦略プランを検討し、発表を行います。それらにより、自分事として観光政策について学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

観光政策の基礎知識と立案方法

#### 目標：

観光政策に関する歴史や多様な姿等を学び、グループワークを通して、観光政策の目的やめざすあり方について考える力を身につけることができる。

2. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解

観光は運輸、宿泊、飲食、物販など非常にすそ野の広い産業分野と関連しており、それら産業との連携の視点からも観光政策を学ぶ

観光が非常に多分野多岐にわたる産業と関係していることを学ぶとともに、自分の将来のキャリア発見の参考にできる

#### 汎用的な力

1. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案

自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、地域の課題を発見し、地域にふさわしい観光のあり方を考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を不可とする。ふりかえりシートの提出、中間テスト、グループワーク、期末テストで評価します。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ふりかえりシート・受講態度

：前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。

グループワーク	40 %	: 後半のグループワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。
期末テスト	40 %	: 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。
	20 %	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著 (2022) 『新しい観光学』 千倉書房  
 NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編 (2016) 『地域創造のための観光マネジメント講座』 学芸出版社  
 国土交通省『観光白書』 (最新版) ※webにも掲載

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。  
 授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:	月曜4限
場所:	個人研究室
備考・注意事項:	質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。 アドレスは、授業で伝えます。 メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>オリエンテーション</b> 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光政策を進める意義や日本における問題点等について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4 時間
第2回 <b>国の観光政策</b> 国の観光政策や観光に関係する政策(国土計計画、自然公園、文化財等)の歴史的経過や現状や抱える問題等について学び、これからのインバウンド政策や国内旅行政策、地方創生、さらには世界的に要請されるサステイナブルツーリズム等について考えます。	国の観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第3回 <b>都市部の自治体における観光政策</b> 都市部の自治体における観光に関する課題や観光政策、DMO等を中心とする観光ガバナンスについて学ぶとともに、事例を通して、観光政策の立案方法や立案プロセスについて学びます。	都市部の自治体における観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第4回 <b>地方部の自治体における観光・地域活性化政策</b> 過疎地域など地方部の自治体においては、観光に関する期待が高くなっています。そうした地域における問題や観光政策、活性化政策、ガバナンス等について学ぶとともに、事例を通して、政策等の立案方法や立案プロセスについて学びます。	地方部の自治体における観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第5回 <b>食やお土産と観光政策</b> 食やお土産は旅行における魅力の大きな部分を占めます。ミシュランやB級グルメ等の食、いちご狩りなどの観光農業、秘密のケンミンショウなどに見られる特産品などです。それらの現状や産み出す取組等について学びます。	食やお土産と観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第6回 <b>宿泊と観光政策</b>	宿泊と観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間

	ホテルや旅館以外に、民泊や農泊、まち宿、キャンプ、車中泊など観光における宿泊は多様化しています。またネットによる予約システムが主流になってきており、それらについて学び、その問題点や今後のあり方について考えます。		
第7回	<b>案内ガイドと観光政策</b>  旅行や観光の質を高める大きな要素に、その資源や地域を案内するガイドやインタープリターの存在があります。テレビ番組でも地域のスポットや人を訪ね歩くプログラムが流行っています。また、近年はスマートフォンを活用した音声ガイドやVR、ARも含めた案内が出現しつつあります。さらに、インバウンドに対応する通訳ガイドの役割も大きくなっています。これら旅行や観光における案内ガイドの意義や現状、問題点、今後のあり方について考えます。	案内ガイドと観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第8回	<b>観光政策の推進と体制・人材</b>  観光政策の推進に関わる人材や体制について学びます。観光政策は一般に、行政が事務局を担いつつ、観光協会などの観光団体、商工会議所や商工会、関連する事業者、そして市民等が連携しながら進めています。また近年設立が広がっているDMO（観光地域づくり法人）や、地方で活躍する人材候補となる地域おこし協力隊制度についても学びます。	観光政策の推進と体制に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第9回	<b>観光政策立案演習のガイダンス</b>  第9回～第14回に実施する観光政策立案演習の内容と進め方の解説を行います。対象自治体はあらかじめ選定します。グループワークとして取り組むため、グループ決めを行います。	グループメンバーにおける役割分担や連絡手段等の検討。	4 時間
第10回	<b>対象自治体の観光に関するリサーチ</b>  配布するシートを活用し、対象自治体の観光に関するリサーチ（観光データ、観光資源、取組等）、をインターネット等を使って行います。	事前に対象地域について地域の概要や観光資源について下調べしておく。必須ではないが、グループで対象自治体の視察を行う。	4 時間
第11回	<b>観光戦略の検討（現状データ等からみた課題の発見・設定）</b>  配布するシートを活用し、SWOT分析等により、観光戦略について検討します。講義中に、適宜、質問を受け付け、必要に応じて助言を行います。	関連する事例等を調べてみる。	4 時間
第12回	<b>観光戦略の検討（事例等を踏まえた観光戦略の立案）</b>  第11回を踏まえて、観光戦略についてまとめ、プレゼン資料を作成します。	発表の練習をしておく。	4 時間
第13回	<b>発表会（前半）</b>  観光戦略について、グループごとに発表を行います。自分のグループの発表だけではなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。	自分と他グループの発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第14回	<b>発表会（後半）とまとめ</b>  第13回の続きを行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。	自分と他グループの発表及び講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間

521

授業科目名	観光資源論				
担当教員	原田弘之				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

### 授業概要

観光する場合の動機や目的の中心的存在である「観光資源」について学びます。前半は基礎編として、観光資源の種類や変遷を学んだ上で、主要な伝統的及び近年注目される観光資源について学びます。また観光資源の調査・発掘方法や活用など磨き上げの方法について学びます。後半は、それらの学びを踏まえて、受講者による個人ワークで、本人が選定する地域を対象とした観光資源の発掘や活用についてのプランを検討し、発表を行います。それらにより、自分事として観光資源について学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

観光資源の多様な捉え方と発見方法

#### 目標：

観光資源に関する歴史や多様な捉え方等を学び、自分の視点で観光資源を発掘し、活用さらには地域振興について考える力を身につけることができる。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、観光資源を見出し、それに関する課題等について考察することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を不可とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ふりかえりシート・受講態度	：	前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。
	20 %	
中間テスト	：	前半の講義に関する理解度を測るテストを実施し、その結果で評価します。
	20 %	
個人ワーク	：	後半の個人ワークに対する取組状況や態度、プレゼンも

含めた結果で評価します。

40 %

期末テスト

: 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

20 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編 (2016)『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社  
 JTB総合研究所編 (2021)『観光学基礎-観光に関する14章』JTB総合研究所  
 酒井順子著 (2003)『観光の哀しみ』新潮文庫

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。  
 授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。  
 アドレスは、授業で伝えます。  
 メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

## 授業計画

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション</b> 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光資源の定義及び観光と自分との関わりを考えてもらいます。	事前にシラバスを読んでおく。	4 時間
第2回	<b>観光資源の種類とその変遷</b> 観光の歴史とともに注目されてきた観光資源の種類について学び、注目されてきた理由について社会動向等も踏まえて考えます。	観光資源の種類と変遷に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第3回	<b>伝統的な観光資源</b> 日本三景や世界遺産などに代表される、自然や歴史・文化、温泉など長年人々に好まれてきた観光資源について学び、その抱える問題や今後のあり方について考えます。	伝統的な観光資源に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第4回	<b>近年注目されてきた観光資源</b> 近年注目されてきたニューツーリズム等の観光資源について学び、その理由や今後のあり方について考えます。	近年注目されてきた観光資源に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第5回	<b>これから注目される観光資源</b> グローバル化や情報技術の進展の中で、現在注目されている観光資源について学び、今後のあり方について考えます。	これから注目される観光資源に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第6回	<b>観光資源の調査・発掘方法</b> 観光資源の調査・発掘について、地域の探検や聞き取りなどを含む、多様な視点による地域における「宝探し」の方法について学びます。	観光資源の調査・発掘方法に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第7回	<b>観光資源の磨き上げと活用方法</b> 発掘した観光資源(場所、体験、食、お土産等含む)について、活用や商品化など磨き上げに向けた方法について学びます。	観光資源の磨き上げと活用方法に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第8回	<b>中間テストとふりかえり</b>	中間テストに関するふりかえりシートを作成する	4 時間

	第1回～第7回までの講義の理解を図るための中間テストを行い、解答の解説を行いながら、ふりかえります。		
第 9 回	<b>観光資源発掘・活用演習のガイダンス</b> 第9回～第14回に実施する観光資源発掘・活用演習の内容と進め方の解説を行います。受講者が住んでいる地域やゆかりのある場所などを選定し、個人ワークとして取り組みます。	演習の対象地域の決定	4 時間
第 10 回	<b>観光資源の発掘と整理・評価</b> 受講者本人の対象地域について、配布するシートを活用し、多様な視点から観光資源の発掘・整理を行います。それらの評価を行い、注目する観光資源を選定します。	事前に対象地域について地域の概要や観光資源について下調べしておく。	4 時間
第 11 回	<b>観光資源活用の検討（対象地域と事例調査）</b> 配布するシートを活用し、観光資源の活用について検討します。講義中に、適宜、質問を受け付け、必要に応じて助言を行います。	関連する事例等を調べてみる。	4 時間
第 12 回	<b>観光資源活用の検討（活用プランの検討・作成）</b> 第11回を踏まえて、観光資源の活用プランについてまとめ、プレゼン資料を作成します。	発表の練習をしておく。	4 時間
第 13 回	<b>発表会（前半）</b> 観光資源の発掘・活用プランについて、各自、発表を行います。自分の発表だけではなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。	自分及び他者の発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第 14 回	<b>発表会（後半）とまとめ</b> 第13回の続きを行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。	自分及び他者の発表と講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間



521

授業科目名	国際経営総論				
担当教員	平賀富一				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全14回）。				

### 授業概要

現代においては、企業活動が国境を越えさらにグローバルな視点から経営と事業活動を行い成果を挙げることが、多くの企業の重要な経営の目標や課題として重要性を増しています。本講義は、企業活動のグローバル化に関する企業経営のあり方について、国際経営に関する基礎的な知識・理論を学び、最新の動向やトレンドにも焦点を当てて重要点を解説し、国際経営に関する基本的な理解を深めます。国際経営の基礎的な知識は、海外市場での企業活動だけでなく、国内で海外からの顧客をターゲットとするホテル等観光関連の企業、日本市場で活動する外資系企業や、外国人幹部や社員が活躍する日本企業の活動にも大きな関りがあります。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を分かりやすく解説するとともに質疑応答を行います。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月1回程度併用する予定です。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

- 国際経営に関する基本的な事項・知識を理解する。
- 国際経営に関する基礎的な知識・理論の重要点を理解し課題解決に応用する。

#### 目標：

- 国際経営に関する基本的な事項・知識について説明できる。
- 国際経営に関する基礎的な知識・理論の重要点を課題解決に応用できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

国際経営に関わる基本的な課題につき、文献含む各種情報を収集・分析し活用する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

授業方法はクラスの規模等に応じて適宜変更する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。特別な事情のある場合を除き、全授業回数の過半数以上の出席（オンライン授業は、リアクションペーパーの提出を出席とみなします）がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。積極的な発言等授業への貢献は歓迎しその内容に応じて加点評価します。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意しますが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し警告、次いでレッドカードを渡し減点対象とします。特に授業の進行と、周囲の受講者の迷惑行為となる私語・携帯電話の通話には厳しく対応します。リアクションペーパーの提出期限は原則として毎回の授業後1週間とし、それ以降の提出は各回1点減点となります。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小レポート（リアクションペーパー、毎回）	：	授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。
	30 %	
定期試験（筆記またはレポート）	：	国際経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。
	70 %	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中川功一・林正・多田和美・大木清弘	・はじめての国際経営	・有斐閣	・2015年

## 参考文献等

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社  
 吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣  
 梶浦雅己編著（2014）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（改訂新版）』文眞堂  
 江夏健一・太田正孝・藤井健（2013）『シリーズ国際ビジネス 1 国際ビジネス入門<第2版>』中央経済社

その他は適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習（課題の解答案の作成を含む、以下同じ）をすること。本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・経済・社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するように心掛けてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、毎回のリアクションペーパーや課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限
場所：	西館3階44研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>ガイダンス、国際経営とは何か</b>  国際経営とはどのようなものかについて、国際経営が日常化している状況や、国際経営の難しさ、企業が国際経営を行う理由などについて学びます。	教科書の第1章を読んで、国際経営に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。	4 時間
第2回 <b>海外直接投資の理論</b>  海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論についての基本を学びます。	講義の内容を、教科書の第2章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、海外直接投資やその理論に関する理解を深めます。	4 時間
第3回 <b>多国籍企業による国際競争の歴史</b>  国際経営の主たる担い手である多国籍企業について、その歴史的な変遷を振り返り学びます。そこでは、米国企業、欧州企業、日本企業による競争環境の変化などを取り上げます。	講義の内容を、教科書の第3章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、日本企業も含む多国籍企業の歴史的な変遷や競争環境の変化に関する理解を深めます。	4 時間
第4回 <b>多国籍企業の国際経営の事例</b>  代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営の特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書の第1-3章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し多国籍企業と国際経営についての理解をより深めます。	4 時間

<p>第 5 回 <b>国際経営のタイプとトランスナショナル経営</b></p> <p>国際経営のタイプや、その進んだ形であるトランスナショナル経営とはどのようなものであるか、国際経営で重要なグローバル統合とローカル適応という考え方を学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第5章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際経営のタイプとトランスナショナル経営や、グローバル統合とローカル適応に関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 6 回 <b>海外子会社の経営</b></p> <p>海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の設立の方法・形態、子会社の役割などについて学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第6章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外の子会社の経営やその設立などに関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 7 回 <b>国際マーケティング</b></p> <p>マーケティングとは何か、国際マーケティングと国内マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第7章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 8 回 <b>国際マーケティングの企業事例</b></p> <p>前回の授業で学んだ国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第7章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、国際マーケティングについての理解をより深めます。</p>	4 時間
<p>第 9 回 <b>海外生産と国際拠点展開</b></p> <p>海外での生産の意義・目的、拠点設立と運営の重要点、国際的な生産ネットワークについて学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第8章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外生産の重要点に関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 10 回 <b>海外生産の企業事例</b></p> <p>前回の授業で学んだ海外生産に関し典型的な多国籍企業の事例で学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、海外生産についての理解をより深めます。</p>	4 時間
<p>第 11 回 <b>研究開発の国際化</b></p> <p>研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか(立地の選択)、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第9章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 12 回 <b>国際的な人的資源管理</b></p> <p>グローバル人材や国際人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第10章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、グローバル人材や国際人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 13 回 <b>日本企業の国際経営</b></p> <p>日本企業の国際経営の現状と課題、今後の発展に求められる重要事項について、分かりやすい事例も紹介して学びます。</p>	<p>講義の内容を、教科書の第12章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本的経営の重要点に関する理解を深めます。</p>	4 時間
<p>第 14 回 <b>本講義のまとめ</b></p>	<p>本講義の重要点を復習し、講義全般に関する理解を深めます。</p>	4 時間

本講義で取り上げた重要事項について講義全般を振り返ってさらなる理解を深めます。

---

521

授業科目名	国際機関論				
担当教員	田中聡				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

現代の国際社会では、安全保障や人権、経済、金融、開発援助など幅広い政策分野において、国際機関が重要な役割を果たしています。今ではその存在がもはや当然視される国際機関ですが、その歴史はたかだかこの200年ほどのものに過ぎません。国際機関の誕生には、戦争が深く影響しており、それは「国際秩序をいかに構築するか」という問題と密接に関わっています。一方で、国際社会において国際機関が果たす機能は、国家が持つ「主権」と常に緊張関係にあり、限界も抱えています。本授業では、これら国際機関の起源、機能、限界について分析することを通して、国際機関をめぐる国際政治を学びます。それにより、現代の国際社会が抱える諸課題への取り組みにおいて国際機関が担う役割を、国際政治の構造を踏まえて理解する視座を養います。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

国際機関の起源やそれらが果たす機能、抱える限界についての理解

#### 目標：

それぞれの国際機関がどのような歴史的背景から設立され、どのような機能を果たしているのか、そしてどのような限界を抱えているのかについて、自分の言葉で説明できる。

#### 汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取り組み

国際機関が抱える諸課題について国際政治学の観点から分析でき、それらを自分の言葉で論理的に議論できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。原則として規定以上出席が無ければ評価しない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

各授業でのリアクションペーパー

： 毎回の授業終わりに講義内容についてまとめたリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーの内容から、講義の理解度と授業参加の能動性を評価します。

30 %

授業内ミニテスト（2回）

： 授業内でミニテストを2回実施し、講義内容の理解度を評価します。

20 %

期末レポート

: 講義内容の理解とそれを自らの言葉で論理的に説明できるかを評価します。

50 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

山田哲也『国際機構論入門』（東京大学出版会、2018年）  
 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の直後  
 場所： 授業の教室  
 備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントを取っていただくとスムーズです。  
 質問はメールでも受け付けます。

## 授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>イントロダクション：国際機関論とは何か</b> 本講義の目的や進め方、評価方法を説明します。特にこの一年、国連の「機能不全」が広く批判されていますが、それら批判の論点をまとめながら、国際機関を学ぶ意義について考えます。	国際機関に関連するニュースを各自で調べてみてください。	4 時間
第2回 <b>国際政治の起源</b> 国際機関の歴史、機能、限界を理解する上での基礎となる現代の国際政治の起源について「主権国家」をキーワードに学びます。	主権国家体系とはどのようなものであり、どのような経緯で生まれたのかについてまとめてください。	4 時間
第3回 <b>国際機関の歴史①：同盟から集団安全保障へ</b> 「同盟」と「集団安全保障」という二つの安全保障方式の論理と、それらがいかに国際機関の発展に関わってきたのかについて学びます。	「同盟」と「集団安全保障」の二つの安全保障方式がどのように異なるのか、またウィーン体制から国際連盟にかけてどのように国際秩序の形成が図られたのかについてまとめてください。	4 時間
第4回 <b>国際機関の歴史②：国際連盟から国際連合へ</b> 国際連盟の「失敗」を踏まえて、国際連合がそのどの部分を引き継ぎ、どの部分を改変して、設立されたのかを学びます。	国際連合において取られている安全保障体制についてまとめてください。	4 時間
第5回 <b>国際連合①：国際連合の組織と機能</b> 国連システムの組織構造とそれぞれの機関の意思決定方式や財源、またそれらが果たす機能について学びます。	授業で扱った国連システムの各機関について、その組織構造、意思決定方式、財源などについて、またそれらの国連システムにおける組織的位置付けについてまとめてください。	4 時間
第6回 <b>国際連合②：国際連合による平和・安全保障</b> 国連による平和維持活動（PKO）がどのように発展を遂げてきたのか、またどのような活動が開発されてきたのかについて学びます。	国連のPKOがどのような歴史的経緯のもとで発展してきたのかについてまとめてください。	4 時間
第7回 <b>地域機構①：EU (1)（欧州統合の起源・深化・拡大）</b>	欧州統合がどのように進展してきたのかについてまとめてください。	4 時間

	欧州統合がどのような歴史的経緯のもとで、どのような目的を持って進展してきたのかについて学びます。		
第 8 回	<p><b>地域機構②：EU (2) (欧州統合 拡大の歪み?)</b></p> <p>ユーロ危機や難民問題、イギリスのEU離脱など、統合を進める中で欧州が直面している危機について学びます。</p>	授業で扱ったEUが直面する危機の概要と、それらの危機が生じるEUの組織的要因についてまとめてください。	4 時間
第 9 回	<p><b>地域機構③：その他地域 (東南アジア、アフリカ、米州、東アジア・環太平洋)</b></p> <p>欧州以外の地域における地域機構の設立背景、目的、組織構造などについて学びます。</p>	授業で扱った地域機構について、その目的と組織構造についてまとめてください。	4 時間
第 10 回	<p><b>国際機関による国際課題への取り組み①：平和構築</b></p> <p>武力紛争に陥った国・地域において、それら紛争を止め、持続的な平和を実現できる国家の建設に向けた、国際機関の取り組みと課題について学びます。</p>	国際社会による平和構築の取り組みがどのように発展してきたのか、またそれらはどのような課題に直面してきたのかについてまとめてください。	4 時間
第 11 回	<p><b>国際機関による国際課題への取り組み②：人権・人道問題</b></p> <p>武力紛争や政治的動乱などにより生じた人権侵害や人道的危機に対して、国際機関によるそれらを保障・支援する取り組みとその課題について学びます。</p>	国際社会による人権・人道問題への取り組みがどのように発展してきたのか、またそれらはどのような課題に直面してきたのかについてまとめてください。	4 時間
第 12 回	<p><b>国際機関による国際課題への取り組み③：経済・金融</b></p> <p>世界の貿易・投資、通貨・金融分野に関する国際機関や国際的な枠組みとその課題について学びます。</p>	経済・金融分野における国際機関、国際的枠組みがどのように発展してきたのか、またそれらが抱える課題についてまとめてください。	4 時間
第 13 回	<p><b>国際機関による国際課題への取り組み④：開発援助</b></p> <p>開発途上にある国や地域の社会・経済的発展の支援を行う国際機関の取り組みとその課題について学びます。</p>	国際社会による開発援助の取り組みがどのように発展してきたのか、またそれらはどのような課題に直面してきたのかについてまとめてください。	4 時間
第 14 回	<p><b>本講義のまとめ</b></p> <p>本講義全体を通しての要点をまとめ、本講義を通して学んできた国際機関についての知識や考え方をどのように現代社会を理解する上で活かすことができるのかを考えます。</p>	本講義全体を通しての要点を復習してください。	4 時間

522

授業科目名	ミクロ経済学				
担当教員	本間哲也				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

ミクロ経済学は、経済活動に関わる個々の「登場人物」（たとえば消費者や企業など）に注目し、生産・販売・消費といった行動がなぜ、どのように行われるかを理解しようとする学問である。本科目では、ミクロ経済学の基本的な考え方や分析の方法を学ぶ。それにより、社会を見る「道具」としての「経済学の考え方」を身につけ、その有用性を実感してもらうことを目指す。学んだ内容は今後、日常の消費生活や、社会人として実際のビジネスに携わる際、現状把握や意思決定を助けるであろう。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

試験	40 %	: 学習内容の理解, 適切な説明ができる文章力。 ※表面的な用語知識よりも概念やメカニズムの理解を重視する。
課題	40 %	: 授業内容の理解, 諸事例に対する応用力。 ※提出資料の体裁や読みやすさも評価の対象。
授業への貢献	20 %	: 質問・発言などの「参加」状況。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・N. グレゴリー＝マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編(第4版)』東洋経済新報社, 2019年
- ・N. グレゴリー＝マンキュー『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社, 2019年
- ・安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年
- ・その他必要に応じ適宜示す。



## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
- ・履修開始前の特段の予備知識は不要。
- ・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。
- ・本講義で紹介する諸概念・分析フレームワークは、経営戦略論・管理会計・企業財務など、経営学部で開講されるいろいろな科目の基礎になっていることが多い。したがって本科目の履修はこれらの経営学諸科目の理解を深めるのにも役立つであろう。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3時限目  
場所： 研究室（西館4階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス・経済学の道具立て  講義の目的・内容・授業の進め方・評価方法など 財・サービスの概念、希少性、機会費用など	シラバスを読み直し、内容を確認する。復習用教材等を用い、授業内容（経済学独特の基礎的諸概念）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第2回 経済学とミクロ経済学、消費者の理論(1)：消費と効用  社会科学における「経済学」の位置づけ、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、マンキューの「経済学の十大原理」など 効用、限界効用、需要曲線など	復習用教材等を用い、ミクロ経済学の特徴などを再確認する。次回授業（前回授業の復習部分）で授業内容（消費行動と効用など）を説明できるようにしておく。	4 時間
第3回 消費者の理論(2)：需要  消費者余剰、需要曲線のシフト、需要の価格弾力性など	復習用復習用教材等を用い、授業内容（需要関数など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第4回 生産者（企業）の理論  企業とは何か、利潤、供給曲線、生産者余剰など	復習用教材等を用い、授業内容（企業行動の経済学的理解など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第5回 市場均衡と効率性  市場均衡、均衡の安定性、均衡の効率性、厚生経済学の定理	復習用教材等を用い、授業内容（価格メカニズムなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第6回 市場介入と効率性  価格規制、課税や補助金の影響、死荷重の発生など	復習用教材等を用い、授業内容（政府の役割など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第7回 独占と寡占  完全競争と不完全競争、独占利潤など	復習用教材等を用い、授業内容（不完全競争市場の特徴など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第8回 外部性  外部効果、外部効果の内部化、コースの定理など	復習用教材等を用い、授業内容（外部経済／不経済など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第9回 公共財  公共財の概念、政府の役割と限界など	復習用教材等を用い、授業内容（公共財と市場の関係など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第10回 経営と経済学  競争優位、差別化、広告、評判、取引費用、競争政策など	復習用教材等を用い、授業内容（企業の諸活動の経済学的理解など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
第11回 ゲームの理論(1)：非協力標準形ゲーム	復習用教材等を用い、授業内容（ゲーム理論の基礎的枠組みなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間

	非協力ゲームの考え方, 標準形ゲームにおけるナッシュ均衡など		
第 12 回	ゲームの理論(2): 展開形ゲーム	復習用教材等を用い, 授業内容(逐次手番ゲームなど)を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
	展開形ゲーム, ゲーム理論の応用例		
第 13 回	不確実性と情報	復習用教材等を用い, 授業内容(不確実性の経済学)を次回授業時に説明できるようにしておく。	4 時間
	期待効用とリスク態度, 逆選択, モラルハザードなど		
第 14 回	まとめ	定期試験準備: 全14回の授業内容を総復習する。	4 時間
	授業の振り返りとまとめ, 試験情報		

522

授業科目名	ホスピタリティと異文理解				
担当教員	金蘭正				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	8回目と12回目の外部講師による特別講座(ANA総合研究所)				

### 授業概要

現代社会は「心の時代」と言われている。また、現代の社会において企業が激しい競争の中で勝ち残るためには、他企業との差をつけなければならないが、その差をつけるには、究極的には、模倣しがたいヒューマンウェアの部分しかない。ヒューマンウェアこそが、差別化、差異化を図る基盤であり、このヒューマンウェアがホスピタリティを体現する。本講義では「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」についての理解が社会生活上不可欠であること、そしてその活用の重要性について考えていく。さらに、異なる文化背景を持った人々の異文化コミュニケーションの場において、異文化を受容し適切に対応しながら、相互の理解を深めるために必要な知識を身につける。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

ホスピタリティの意義・文化の起源、異文化理解

#### 目標：

ホスピタリティに関する理念及び諸理論の習得と異文化を受容し適切に対応しながら、相互の理解を深めるために必要な知識を身に付ける。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

常にホスピタリティや異文化に興味を持ち、様々な媒体を通して収集した資料から、関連業界や異文化理解についての課題を検討できる。

2. DP10. 忠恕の心

相手の立場に立って、考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
「試験（小テスト、中間テスト、定期試験）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

小レポート・受講態度

20 %

中間テスト

40 %

#### 評価の基準

： 教材の理解力、および課題意識について評価する。

： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。

定期試験（筆記）

： ホスピタリティの基礎知識を用いて自身の意見を述べる。  
 1. ホスピタリティの基礎知識を正しく理解し、2. ホスピタリティの重要性や最高のホスピタリティ実践方法について提案できるのかの観点から評価する。

40 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

服部 勝人 (2004) 『ホスピタリティ・マネジメント入門』丸善株式会社  
 海老原 靖也 (2005) 『ホスピタリティー入門』大正大学出版会  
 ホスピタリティ・サービス研究会 (2007) 『事例でわかるホスピタリティ・サービス』日本能率協会マネジメントセンター

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 3限  
 場所： 研究室（西館2階）  
 備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>ガイダンス&amp;ホスピタリティの意義、重要性</b> 学習内容や評価方法、受講についての注意事項について説明したうえで、ホスピタリティとは何か今の時代なぜホスピタリティが重要なのかについて学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4 時間
第2回 <b>ホスピタリティ文化の起源</b> ホスピタリティ文化の起源、とりわけ西洋におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：共飲共食、ホスピタル、ホスピス）	4 時間
第3回 <b>ホスピタリティ文化の起源（東洋・日本）</b> 東洋と日本におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：社会的倫理の範疇、もてなす、ご馳走）	4 時間
第4回 <b>ホスピタリティとサービスの語源</b> ホスピタリティとサービスの語源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピス、セルバス）	4 時間
第5回 <b>ホスピタリティとサービスの概念比較</b> ホスピタリティとサービスの概念について学び、相違点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：双方向、一方通行）	4 時間
第6回 <b>東京ホテル戦争1（ホテルのマーケティング）</b> 2002年以降、外資系高級ホテルの多数の東京進出により起こった社会現象「東京ホテル戦争」を取り上げ、その背景や影響などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旧御三家、新御三家ホテル）	4 時間
第7回 <b>今までの授業内容Reviewと中間テスト</b> 今迄の授業内容を振り返り中間テストを実施します。	今までの授業内容を復習しておく。	4 時間
第8回 <b>外部講師による特別講座</b> 外部講師をお招きし、ホスピタリティ業界をめぐる現状や課題についてお話を聞きます。	ホスピタリティ産業の動向を調べておく。	4 時間
第9回 <b>東京ホテル戦争2（ジョブホップ）</b>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ジョブホップ）	4 時間

	「東京ホテル戦争」がもたらした弊害について学んだ後、ホテルにおけるのヒューマンウェアの重要性について学びます。		
第 10 回	<b>東京ホテル戦争 3 (場所のホスピタリティ、高級ホテルの基準)</b>  リゾートホテルの「場所のホスピタリティ」、高級ホテルの基準、社会を感じさせない高級ホテルの特性について学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード: 場所のホスピタリティ、高級ホテルの基準)	4 時間
第 11 回	<b>ホスピタリティの本質 (相手の器に全てを合わせる、マニュアルには落とし込めない)</b> 相手が考えている一歩先をリードする、相手の器に全てを合わせていく、マニュアルには落とし込めないなどのホスピタリティの本質について学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード: 相手の器、マニュアル)	4 時間
第 12 回	<b>外部講師による特別講座</b>  外部講師をお招きし、ホスピタリティ業界をめぐる現状や課題についてお話を聞きます。	ホスピタリティ産業の動向を調べておく。	4 時間
第 13 回	<b>ホスピタリティ・マネジメントの定義</b> TQSやインターナルマーケティングなどの理論に基づいた、ホスピタリティ・マネジメントの定義について学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード: TQS, 相互依存型の産業形態)	4 時間
第 14 回	<b>ホスピタリティのある観光を作る</b>  観光に求められるホスピタリティやホスピタリティを育むことの意味、ホスピタリティのある観光実現の指針などについて学びます。	まとめノートの作成 (作成のためのキーワード: ホスピタリティを育む教育のポイント、ホスピタリティある人間の育成)	4 時間

522

授業科目名	観光マーケティング論				
担当教員	金蘭正				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

観光は人々の楽しみに大きく関与するものなので、その期待に応えていくためには、他の一般商品以上にお客様の視点に立ったマーケティングの発想が不可欠であります。本講義では、観光ビジネスではどのようなマーケティングが実践されているのかを理解するために、マーケティングの基本的な理論とケーススタディを中心に学びます。観光客を受け入れる都市や地域は集客のためにどのような取り組みをしているのかについても理解してもらいます。本授業は、教員による一方的な講義ではなく、受講者による学習・発表が主になります。発表内容に基づき、教員が補足説明することによって、学習内容の理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解

マーケティングの基礎理論と観光マーケティングの実践方法の理解

マーケティングを学ぶ上で必要な理論の理解とそれに対応する観光のケーススタディを通して、実践で発揮する力を身に付ける。

2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

観光産業のマーケティングに関する知識

インターネットや書籍の情報をもとに、観光産業のマーケティングの特徴的な動向を理解できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。  
「試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）」

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

発表・受講態度	:	1. 与えられた課題に対してポイントを適切にまとめ、分かりやすく発表できたのか。2. 毎回実施する小テスト点数の平均。
		40 %
中間テスト	:	次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。
		30 %

定期試験（筆記）： 次の観点から評価する。1. マーケティングの基礎知識を正しく理解、2. 観光マーケティングのケーススタディを通して、集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについて自身で考察できるのか。

30 %

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
森下 晶美編著	・新版 観光マーケティング入門	・同友館	・2016年

## 参考文献等

ホスピタリティ・ビジネス研究会訳（Philip Kotler 外2人）『ホスピタリティと観光マーケティング』 東海大学出版部 1997年

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜3限
場所：	研究室（西館2階）
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。 アドレス：kim-r@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

## 授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>オリエンテーション・マーケティングとは</b> 学習内容や評価方法、受講についての注意事項などについて説明したうえで、マーケティング・観光マーケティングとは何かについてQuiz形式で確認します。	事前にシラバスを熟読しておく	4 時間
第2回 <b>ホスピタリティと観光のマーケティングについて</b> マーケティングの定義について確認したうえで、ホスピタリティ・ツーリズムのマーケティングの特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、4P, 7P）	4 時間
第3回 <b>商品購買と人間ニーズの充足</b> マーケティングは、「お客の思い」を正しく理解するための活動であることを学び、本当のニーズをつかむことが大事であることを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニーズ、ウォンツ）	4 時間
第4回 <b>購買意思決定のプロセス</b> 商品の購買に至る一連の行動について理論と事例を通して理解します。また、購買に影響を与える消費者の特性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：AIDMA法則、AISAS理論）	4 時間
第5回 <b>お客とはだれなのか。市場細分化、ポジショニング</b> 消費者を“ある尺度”で共通したグループに分類するとの市場細分化についてその理由や基準等について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：セグメンテーション、ターゲット・マーケティング）	4 時間
第6回 <b>マーケティング環境分析：SWOT分析</b> マーケティング環境分析の必要性とツールとしてのSWOT分析について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：Strength, Weakness, Opportunity, Threat）	4 時間
第7回 <b>マーケティング・リサーチ</b>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PDCA、定量的データ、定性的データ）	4 時間

	マーケティング・リサーチの企画・設計の進め方やデータ収集のための尺度・質問文作成における注意点などについて学ぶ。		
第 8 回	<p><b>今までの授業内容のReviewと中間テスト</b></p> <p>現在までの授業内容をまとめた上で、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。</p>	現在までの授業ノートを取りまとめる	4 時間
第 9 回	<p><b>プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント</b></p> <p>プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント手法を理解し、プロダクト・ライフサイクルの概念と観光地のライフサイクルにおける特徴や問題点について確認します。</p>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PPM、プロダクト・ライフサイクル）	4 時間
第 10 回	<p><b>旅行商品流通チャンネル</b></p> <p>旅行商品の種類と特徴について理解したうえで、旅行商品の流通チャンネルについて理解します。</p>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、ホールセール）	4 時間
第 11 回	<p><b>マーケティングで価格戦略を策定</b></p> <p>競争優位の基本戦略を理解し、価格決定方法や競争市場戦略の4つの位置づけについて学びます。</p>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：スケールメリット、競争市場戦略）	4 時間
第 12 回	<p><b>ブランドマーケティング</b></p> <p>ブランド・イメージの定義やブランド構築のプロセスなどについて学びます。</p>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランド・アイデンティティ、永続性）	4 時間
第 13 回	<p><b>観光地ブランドと地域づくり</b></p> <p>観光地におけるブランド構築や地域づくりにおいてのポイントについて学びます。</p>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：コンセンサス、ディマーケティング）	4 時間
第 14 回	<p><b>カスタマー・リレーションシップ・マーケティング</b></p> <p>CRMの概念やCRMが重視されるようになった背景について理解したうえで、実践事例を通じてその考え方を理解します。</p>	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CRM、データベース・マーケティング）	4 時間



522

授業科目名	国際観光研究特別科目				
担当教員	国枝よしみ・Jリング				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社を経て系列のホテルで企画・広報・マーケティング等管理職を経験、公募により県庁職員となり広報、地域戦略等を経験し現在に至る。				

### 授業概要

本授業は、国連の世界観光機関（UNWTO）との連携のもと、国際的な観光政策の動向に関する最新の知見を得ることを目標とする。2003年「観光立国宣言」を契機として観光政策が国づくりの柱として位置づけられ、訪日外客数を飛躍的に増大させることを主要な政策目標として近年大きな成果を上げてきたが、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大により、我が国は大きな試練にさらされた。今後急速な回復に向けて、観光の果たす役割をグローバルな視点と捉え、世界観光機関の活動や、海外の事例を参考にこれからの国際観光の在り方について考察を深めていく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

事業別観光経営及び地域・文化の理解を具体的な事例を通して習得する

#### 目標：

国際観光分野の専門的知識の理解

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

学習を通して地域における課題を発見することができる

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物に関して、クラスルームで個別にコメントすることがあります。

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

Presentation

#### 評価の基準

： プレゼンテーションは独自のルーブリックにより評価します。  
Presentation will be assessed according to the professor's original rubric.

20 %

課題

： 授業の中で課題に取り組みます。課題は基本的にGoogle classroomに提出します。

小テスト	20 %	: 簡単なクイズを授業内で行います。The quiz will be provided in order to test students' knowledge about the materials provided in lectures and assessed according to our university's standard rubric
期末レポート	20 %	: 期末レポートは独自のルーブリックにより評価します。Final report will be assessed according to our university standard rubric.
Active Learning Skills	30 %	: 週間アクティブラーニングノートやディスカッションサマリーについて独自のシラバスにより評価します。Weekly active learning notes, class discussion summaries, active research notes will be assessed by the pr
	10 %	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国枝・坂井・檜本・デイ ヴィス	・観光マネジメント	・千倉書房	・2022年

## 参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著 (2023) 『新しい観光学』, 千倉書房

## 履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定の出席回数に満たない場合は成績評価をしないことがありますので気をつけて下さい。積極的に議論に参加、発言することを期待します。Students are required to participate and discuss proactively in every class.

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:	金3限
場所:	西館 3F
備考・注意事項:	上記は、国枝のオフィスアワー、リング先生はメールで問い合わせてください。

## 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回 <b>観光マネジメント序論</b> <b>Introduction of Tourism Management</b> ・ガイダンス ・観光学の進化と成熟の過程を知る 。海外での観光教育と訓練を行う大学、職業教育等を学び、日本と比較する	観光学システムを事前に予習しておくこと	4 時間
第 2 回 <b>観光システム</b> <b>Tourism Systems</b> ・観光システムの基本的な構造について知る ・観光客についての定義とタイプ ・観光システムにおけるの出発地、経由地、目的地を理解する	観光産業の発展と成長を予習しておくこと	4 時間
第 3 回 <b>観光産業の発展と成長</b> <b>Development and Growth of Tourism Industries</b> ・観光の歴史から観光の特徴を理解する ・産業革命の果たした役割と戦後の国際観光到着数の増加を学ぶ ・観光需要と経済発展を結びつける	オーストラリアの観光の特徴を予習しておくこと	4 時間
第 4 回 <b>観光目的地</b> <b>Tourism Destinations</b>	観光商品とは何かを調べておくこと	4 時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光目的地としての先進国と新興国の相対的な状況を理解する</li> <li>・観光客を引き付ける魅力とは何か、その特徴を見極める</li> <li>・世界の主要な地域の魅力について評価する</li> <li>・オーストラリアの観光の特徴を知る</li> </ul>		
第 5 回	<b>観光商品 Tourism Products</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光名所の4つの主要タイプとサブタイプに分ける</li> <li>・観光産業の主要セクターの基本的な特徴を学ぶ</li> <li>・観光製品の多様化とグローバル化について議論する</li> <li>・Presentation preparation and materials introduction. Project-based learning.</li> </ul>	与えられた観光市場について予習しておくこと	4 時間
第 6 回	<b>観光市場 Tourism Markets</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の行動のプロセスを理解する</li> <li>・市場のセグメンテーションの必要性とそれに関する基準を学習する</li> <li>・心理的セグメントにおけるタイプ別特徴を理解する</li> <li>・事前に米国のメイン州のマーケティング戦略を学習しておき、グループで日本人向けの誘致戦略を考察する</li> <li>・Presentation preparation/Project-based learning.</li> </ul>	予め与えられた観光マーケティングについて予習しておくこと	4 時間
第 7 回	<b>ケーススタディ 観光マーケティング Tourism Marketing</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスマーケティングの特徴と理解する</li> <li>・観光マーケティングの需要、市場の失敗、マーケティングミックスに関して理解する</li> <li>・価格戦略について学習し、観光振興で活用するメディア戦略を考える</li> <li>・メイン州への日本人の誘致戦略に関して、英語のフォーマットを活用しプレゼンテーションに落とし込む</li> </ul>	プレゼンテーションを完成させ、発表の練習をしておく	4 時間
第 8 回	<b>プレゼンテーション Presentation</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでケーススタディのプレゼンテーションを行う</li> <li>・米国からの評価と自分たちの評価を行う</li> <li>・プレゼンテーションの振り返りと改善点を話し合う</li> </ul>	観光のプラス面とマイナス面を考えておくこと	4 時間
第 9 回	<b>観光における経済への影響 Economic Impact of Tourism</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光に伴うプラスとマイナスの影響を理解する</li> <li>・観光地がマイナスの影響を受けるメカニズムを知る</li> <li>・観光産業に特徴的な需要の変動パターンとそれがもたらす経済の影響を学ぶ</li> </ul>	観光の社会・文化に及ぼす影響を考えておくこと	4 時間
第 10 回	<b>観光の社会文化と環境への影響 Impact of tourism toward social culture and environment</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光がもたらす社会的・文化的恩恵を挙げる</li> <li>・商品化とそのプラスマイナスの影響を説明する</li> <li>・観光と犯罪の間に存在する関係性について考える</li> <li>・環境への影響を測る手段としてのエコロジカルフットプリントについて学ぶ</li> </ul>	観光地開発とはどのようなことかを予習しておくこと	4 時間
第 11 回	<b>観光地開発と持続可能な観光 Tourism Development and Sustainability</b>	持続可能な観光の事例を挙げておくこと	4 時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地のサイクルという概念を理解する</li> <li>・観光地サイクルに変化をもたらす要因を理解する</li> <li>・国家規模で行われる観光開発パターンにどのように適合するかを考える</li> </ul>		
第 12 回	<b>持続可能なツーリズム Assessing Global Market Opportunities</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マストツーリズムのメカニズムを理解する</li> <li>・持続可能な観光とはどのようなものかを理解して応用できるようになる</li> </ul>	国際観光機関の活動を事前に調べておくこと	4 時間
第 13 回	<b>ケーススタディ：Case Study</b> <p>世界観光機関の講師より、具体的な事例を解説いただき、持続可能な観光に必要な要素、人材、体制など講義を聞いた後、まとめと自身ができることを考えてレポートにする</p>	ケーススタディのレポートをまとめ提出する	4 時間
第 14 回	<b>観光調査：Tourism Research</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主たるタイプの調査を紹介し、それぞれの重要性を理解します</li> <li>・一次・二次調査に関する手法について解説します</li> <li>・調査プロセスの基本的な段階について理解する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのまとめと振り返りを行う</li> </ul>	これまでの振り返りを行うこと	4 時間

授業科目名	航空・運輸事業論				
担当教員	辛川敬				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり（第1～5, 7～14回）。航空会社の経営企画、総合研究所社長等を歴任（第6回）。				

### 授業概要

航空事業は現在国際的な交通運輸産業の中心的な役割を担い、国際観光のみならず社会インフラとして、極めて重要な役割を果たしている。その航空事業の歴史、発展、背景等から基礎的な知識を持ち、航空ビジネスの現状、課題を理解する。また、経営学の面からも、航空事業戦略を分析し理解する。講義だけでなく、グループワークにより、様々な航空会社の事例からその経営戦略を分析し発表する機会を作り、その能動的な学びを通し、学生が航空ビジネスにより興味を持つことを目指す。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

航空事業の幅広い領域について、その基本的な役割や内容を理解する。  
航空事業の各領域における専門的な業務内容に関する知識を深める。

#### 目標：

講義の情報をもとに、航空事業の各領域が担う内容、相互関連性、必要性、重要性を理解できる。  
各領域に関する専門的知識を深めることによって、事業に求められる人材像を理解できる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

様々な角度からのアプローチを通じて、航空産業が抱える課題を多面的に発見できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他（以下に概要を記述）

航空会社の経営戦略に関するグループ発表において、評価、コメントします。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

期末レポート

： 14回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。

30 %

授業への参加意欲	:	毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。
	20 %	
グループワークとプレゼンテーション	:	グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて評価する。
	30 %	
リアクション・ペーパー	:	毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。
	20 %	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(株) ANA総合研究所	・航空産業入門 第2版	・東洋経済	・2017年

## 参考文献等

株式会社ANA総合研究所編集『エアラインオペレーション入門』改訂新版 イカロス出版 2022年  
井上 泰日子『最新航空事業論』(第3版) 日本評論社 2019年

他、随時参考文献等を紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・日々のニュースから、航空事業に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・事例研究のグループワークでは積極的に協働することが求められる。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:	水曜日2限
場所:	西館4階
備考・注意事項:	メールで質問等も受け付けます。 その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記すること。

## 授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の進め方、航空事業の特徴と他の交通事業との違い 14回の授業の内容、進め方、評価について解説をする。 航空運輸業の特徴を他の運輸業との比較において明らかにする。	教科書、第2部第6章を読み、航空輸送について基本的な特徴を理解しておく。	4 時間
第2回 航空産業の歴史 航空運輸業の歴史と、それぞれの時代における役割を理解する。	教科書、第1部第1～3章を読み、航空の歴史の全体像をつかんでおく。	4 時間
第3回 日本における航空産業の歴史 日本における航空運輸業の歴史と、他国との違いを理解する。 期末のグループ発表についての説明。 (グループワークについての説明、課題提供等)	教科書、第1部第1～3章の日本の歴史に関する箇所をまとめておく。	4 時間
第4回 航空会社の経営戦略(レベニュー・マネジメント) 収益を最大化するレベニュー・マネジメントの仕組みを理解する。 グループワーク(1回目)	教科書、第2部第9章のレベニュー・マネジメントの項目を読みまとめておく。	4 時間
第5回 航空会社の経営戦略(ネットワーク戦略) 航空会社の路線網における戦略を理解する。 グループワーク(2回目)	教科書、第2部第8章を読み、航空会社のネットワークの実例からその戦略を理解しておく。	4 時間
第6回 外部講師による特別授業(航空会社の経営戦略について)	ANAについて事前配布資料を読み、まとめておく。事前提供の課題について自身の意見をまとめておく。	4 時間

	航空会社のケーススタディー モデルケースとしてANAを取り上げ、航空事業の歴史、経営戦略の変遷を理解する。 与えられた事前課題について討議する。		
第 7 回	<b>航空会社の経営戦略（アライアンスとジョイントビジネス）</b> アライアンス（航空連合）とジョイントビジネスについて、その特徴と意義を理解する。 グループワーク（3回目）	教科書、第2部第7章を読み、アライアンスについて理解しておく。	4 時間
第 8 回	<b>航空会社の経営戦略（マイレージ・プログラム）</b> 航空会社のマイレージ・プログラム（FFP）が航空会社の経営にどのような影響を及ぼすか理解する。また、その基礎となるデータベースマーケティングを理解する。 グループワーク（4回目）	教科書、第2部第10章を読み、マイレージ・プログラムを理解しておく。	4 時間
第 9 回	<b>航空会社の経営戦略（ブランド戦略と顧客満足）</b> 航空会社のブランド戦略とCS（顧客満足）の重要性を理解する。 グループワーク（5回目）	教科書、第2部第11～12章を読み、CSとブランド戦略について理解をしておく。	4 時間
第 10 回	<b>空港の役割（旅客サービス、グランドハンドリング等について）</b> 航空事業における空港の役割と空港での主業務である旅客サービスとグランドハンドリングについて理解する。 与えられた事前課題について討議する。	教科書、第1部第5章を読み、空港についての理解をもつ。事前提供の課題について自身の意見をまとめておく。	4 時間
第 11 回	<b>LCC（格安航空会社）のビジネスモデル</b> LCC（Low Cost Carrier）の経営戦略について理解する。 また、LCCと従来の航空会社（FSC：Full Service Carreir）の経営戦略における違いを明らかにする。 グループワーク（6回目）	教科書、第2部第15章を読み、LCCのビジネスモデルを理解しておく。	4 時間
第 12 回	<b>航空機製造産業</b> 航空機製造産業についてその特色、特殊性を理解する。 グループワーク（7回目）	事前配布資料から、航空機製造産業について理解しておく。	4 時間
第 13 回	<b>グループ発表会</b> グループワーク発表 グループで取り組んだ課題についてその成果を発表する。 それぞれの発表を評価する。	グループ発表の準備、リハーサルをしておく。	4 時間
第 14 回	<b>航空貨物について。授業の振り返り</b> 国際航空貨物について、旅客の経営戦略との異同を理解する。 講義の振り返り：航空業界の現状と未来、航空産業と環境問題について理解する。 期末レポートにおける課題を提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 その際研究倫理のもと、著作権と個人情報についての説明も行う。	教科書、第2部第14章を読み、国際航空貨物についての理解をもつ。13回の授業を振り返り、航空ビジネスの未来像について自身の意見をまとめておく。	4 時間

522

授業科目名	MICE&イベント企画論				
担当教員	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年イベントに携わり、イベントの企画・立案および運営マネジメントを担当。一般社団法人日本イベント産業振興協会認定である。(全14回)				

### 授業概要

本授業では、観光立国戦略の手段であるMICEについて学びます。MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。また、一般社団法人日本イベント産業振興協会認定授業でもあり、イベント企画・提案・制作が出来る基本的なスキルを体系的に学びます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

イベントとMICE業務の専門知識

イベントとMICE業務の基礎的な企画・提案・制作ができる。

#### 汎用的な力

1. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案

企業や組織の課題解決に埋めて、イベントやMICEを使った方策を企画・立案することができる。

### 学外連携学修

有り(連携先：一般社団法人日本イベント産業振興協会)

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。定期試験（筆記）を必ず受けること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業態度・演習	：	授業態度および演習を独自のルーブリックに基づいて30点満点で評価します。
30 %		
振り返り	：	前回授業の振り返り。授業内容を踏まえた必要知識が理解を30点満点で評価します。
30 %		
定期試験	：	イベントの必要知識を40点満点で評価します。イベント検定試験合格相当の知識があれば40点とします。
40 %		

### 使用教科書



指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一般社団法人日本イベント産業振興協会	・イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント	・	・2020年

## 参考文献等

観光庁・日本政府観光局資料

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
- ・一般社団法人日本イベント産業振興協会「イベント検定公式テキスト 基礎からわかるイベント」を必ず購入してください。
- ・一般社団法人日本イベント産業振興協会認定「イベント検定」試験を必ず受検してください（受験料別途）。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日3時限（13:10～14:50）
場所：	西館4階 松田研究室
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス・観光立国とイベント イベントを学ぶ意義について考えます。	観光とイベントの現状について調べておきます。	4 時間
第2回 イベントの概念と全体像（1）イベントの定義 イベントの概念と分類	イベントの概念（テキスト第1章第1節）を理解しておきます。	4 時間
第3回 イベントの概念と全体像（2）社会の発展とイベント イベントの歴史	イベントの歴史（テキスト第1章第2節）を理解します。	4 時間
第4回 イベントの概念と全体像（3）イベントの役割 メディアとしてのイベント	イベントのメディア的価値を理解しておきます。	4 時間
第5回 イベントの企画と計画（1）企画の意味と本質 イベントの企画	イベント企画（テキスト第2章第4節）とはなにか理解しておきます。	4 時間
第6回 イベントの企画と計画（2）計画の意味と本質 イベントの計画	イベント計画（テキスト第2章第5節）とはなにか理解しておきます。	4 時間
第7回 イベントの企画と計画（3）イベント企画の構成要素 イベント企画書とプレゼンテーション	イベントの実際の企画書（配布資料）を調べておきます。	4 時間
第8回 イベントの制作推進（1）制作と製作 イベントの制作推進と管理	イベントの制作と管理（テキスト第3章第7節）について調べておきます。	4 時間
第9回 イベントの制作推進（2）イベントの4大管理 イベントの会場制作	イベントの会場制作（テキスト第3章第8節）について調べておきます。	4 時間
第10回 イベントの制作進行（3）イベントプログラムの概念 イベントのプログラム制作	イベントのプログラム制作（テキスト第3章第9節）について調べておきます。	4 時間
第11回 イベントの制作進行（4）告知・集客の考え方 イベントの告知・集客、参加者・来場者・協力者募集	イベントの告知と集客方法（テキスト第3章第10節）を調べておきます。	4 時間
第12回 イベントの運営とマネジメント（1）広義の運営と狭義の運営 イベント運営の全体とイベント会場の運営業務	各自イベントに参加して運営の流れについて調べておきます。	4 時間
第13回 イベントの運営とマネジメント（2）イベント実施時の運営と会場管理業務 イベント運営業務のポイントおよびリスクマネジメントと安全管理	イベントの運営業務のポイントを調べておきます。	4 時間
第14回 イベントの運営とマネジメント（3）ユニバーサルイベント	イベントを自分ならばどう企画運営するか考えておきます。	4 時間

これからのイベントマネジメントで  
必要とされるユニバーサル概念と  
具体的な対応を学ぶ

---

522

授業科目名	ホテル・ブライダル経営論				
担当教員	島雅則				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。(全14回)				

### 授業概要

サービス産業の中核に位置するホテルの事業経営の両輪であるホスピタリティとマーケティングの本質を学ぶとともに、その特異な経営手法も身に付ける。ホテルとブライダル現場の運営知識の習得にくわえ、様々な事例にケーススタディ形式で触れ学ぶことにより、ホテルとブライダルのマネジメントへの興味と自己啓発意欲を高める。併せてこのビジネスを運営と経営の両視点から理解することにより、業界のグローバル化と生産性向上にマネジメントレベルで取り組める高度経営人材の育成を目指す。また、学修成果の確認のため、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」3級にもチャレンジできるよう指導する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

- ホテル・ブライダル業界に関する知識
- ホテル・ブライダル経営に関するケーススタディに取り組み、自らの考えをまとめ記述できる力

#### 目標：

- 厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の3級「学科試験」合格レベルの知識が習得できる。
- 厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の3級「実技試験」合格レベルの知識が習得できる

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案

- ケーススタディから本質的な課題を発掘し、検討できる。
- 課題に対して、柔軟な条件設定ができ、具体的な改善、解決策を提示できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設けます。

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、授業放棄と見なします。

## 成績評価の方法・評価の割合

## 評価の基準

定期試験（筆記）	:	基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的な文章作成力を評価します。
	60 %	
授業外課題	:	取り組み度（課題提出期限遵守を含む）と理解度、論理性について、独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。
	30 %	
授業への参加度	:	授業やグループワークでの教員、メンバーとのやり取りを科目独自のルーブリックに基づいて評価します。
	10 %	

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2023）『新しい観光学』、千倉書房、力石寛夫著『ホスピタリティ（サービスの原点）』（商業界、2014年）、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』（同文館、2013年）、仲谷秀一著『新・総支配人論』（嵯峨野書院、2004年）、『ホテル・ビジネス・ブック』（中央経済社、2006年）、田尾佳子著『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』（白桃書房、2016年）、『数字でとらえるホスピタリティ』（産業能率大学出版部刊、2014年）、沼上幹著『ブライダル産業～デフレーション下における需要構造分析』（東洋経済新報社 2017年）、【論文】徳江順一郎『ブライダルにおける市場の変化とホスピタリティ』（高崎経済大学論集第54巻第2号 2011年）、河内山潔、石川夕起子『ブライダル企業のケーススタディーワタベウェディング株式会社をケースとして』（関西国際大学研究紀要12巻 2011年）、その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。また、教科書の代用とする資料は、授業前にコピー、あるいはGoogle Classroom上でデータ配布する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。ホテルやブライダル業界にキャリアを求める学生はもとより、業種業界を問わずホスピタリティマインドとサービス産業の経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。また、経営管理には不可欠な計数感覚を身に付けるために、毎回の授業の冒頭を使い企業の管理会計に必要な基礎知識を学ぶ。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日 2・3限目
場所：	島研究室（西館2階）
備考・注意事項：	上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。 (shima-m@osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

## 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、ホテル業界は今 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。動画も使いホテル業界の現状と課題を共有し、ホテルマネジメントスキルの修得のための道筋を示します。	授業で視聴した動画に関する課題についてレポートにまとめて提出する。	4 時間
第2回 ホテルの歴史と基本知識 ホテルの語源と起源を学び、観光産業を構成する重要な業種の一つであるホテル業の発展の歴史を世界と日本で概観します。キーワードはしっかりと押さえてください。	世界あるいは日本の主要ホテルチェーン3つを選び、その発祥と発展の経緯並びに特徴についてまとめる。	4 時間
第3回 世界と日本のホテルチェーン 現在の主要な世界ホテルチェーンを多面的に分類し、それぞれの生き残りのためのグローバル戦略について考えます。あわせて日本の主要ホテルチェーンとその置かれている現状を学び、外資系とのホテル戦争をどう乗り切るかを考え、その仮説について議論します。	次回授業の教科書の学習範囲（宿泊）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4 時間

<p>第4回 ホテルの実務知識①（宿泊）</p> <p>ホテル運営の要である宿泊部門の業務基礎を学びます。予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（宿泊）の解説も行います。</p>	<p>次回授業の教科書の学習範囲（料飲）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第5回 ホテルの実務知識②（料飲）</p> <p>日本のホテルは料飲売上に大きく依存する体質です。その料飲業務の基礎を学び、予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（料飲）の解説も行います。</p>	<p>次回授業の教科書の学習範囲（宴会）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第6回 ホテルの実務知識③（宴会）</p> <p>日本のホテルで独特の発展をしてきた宴会部門とブライダル部門についてその業務内容を確認します。予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（宴会）の解説も行います。</p>	<p>今回の授業で講義いただくホテルのブライダル責任者に対する事前質問事項をまとめてくる。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第7回 ブライダルビジネスの基本（学外講師）</p> <p>ホテルのブライダル部門の責任者にブライダルビジネスの基本と昨今のマーケットの事情について講義いただきます。 ※この第7回授業、並びに関連する第8回は講師のスケジュールにより日程が変わることがあります。</p>	<p>一般的な事業の多角化について関連書籍やネットで調べ基礎知識としてレポートにまとめる。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第8回 ブライダル専門会社の多角化を考える</p> <p>出生率の低下が少子化を招き、ジミ婚やナン婚も増える昨今、ブライダル業界は厳しい事業経営にさらされています。特にブライダルを専門とする会社を例に、今後の事業（ポートフォリオ）の多角化について考えます。</p>	<p>次回授業の教科書の学習範囲（営業とマーケティング）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第9回 ホテルの実務知識④（営業とマーケティング）</p>	<p>次回授業の教科書の学習範囲（クレーム・苦情対応）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。</p>	<p>4 時間</p>

	<p>今までの授業で学んだホテル現場の収益部門を援助・補佐し、企業の経営戦略を具体的に実行する中枢部門である営業・マーケティング部門の仕事について学びます。予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（営業・マーケティング）の解説も行います。</p>		
第 10 回	<p><b>ホテルの実務知識⑤（クレーム・苦情対応）</b></p>	<p>次回授業の教科書の学習範囲（ホテルの運営方式）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。</p>	4 時間
	<p>ホテルでは日々様々なクレームが発生し、その対応は現場からマネジメントまでホテルパーソンに求められるもっとも大切なスキルです。予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（クレーム対応）の解説も行います。</p>		
第 11 回	<p><b>ホテルの運営方式</b></p>	<p>次回授業の教科書の学習範囲（ホテル会計）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。</p>	4 時間
	<p>ホテル事業には大きく分けて4つの形態があります。それぞれの特徴、長所短所を学び、今後外資系の主要ホテルチェーンと伍してグローバルに生き残るための条件について考えてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（ホテルの運営方式）の解説も行います。</p>		
第 12 回	<p><b>ホテル会計と収益管理</b></p>	<p>ホテル総支配人の仕事に関して文献やネットで調べ、レポートを提出する。</p>	4 時間
	<p>ホテルをグローバルレベルで評価するためには、米国のホテル会計の統一制度である「ユニフォームシステム」の理解が不可欠です。その特殊性と有用性を学ぶことにより、ホテルビジネスを経営の視点で見る力を養います。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（ホテル会計）の解説も行います。</p>		
第 13 回	<p><b>ホテルのマネジャー業務と総支配人のミッション</b></p>	<p>13回の授業を振り返り、気付きと感想、自身の目標についてレポートにまとめ提出する。</p>	4 時間
	<p>ホテルのマネジャー（管理監督職）の仕事を知り、その頂点に立つ総支配人（GM）がいかに多能で、様々な知識とスキルを身に付ける必要があるかを理解してもらい、ホテル業界を目指す皆さんには総支配人を目標に自らのキャリア形成の道筋を明確にできるよう指導します。</p>		
第 14 回	<p><b>授業の振り返りと総括</b></p>	<p>シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える。</p>	4 時間
	<p>授業外課題の各自の振り返りに対する講評とコメントで授業を総括します。また、本授業の目的の一つである、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」3級の受検にあたっての注意点についても確認します。</p>		

522

授業科目名	旅行業務取扱管理者演習				
担当教員	松田充史・松野麻里子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営を担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。				

### 授業概要

本授業では、観光における唯一の国家試験である旅行業務取扱管理者資格の問題演習を通じて、旅行実務等について体系的に学ぶ。JR・航空・バス・フェリー・宿泊で構成される5分野の運賃・料金の知識、国内観光資源（＝地理）といった旅行会社のみならず、あらゆる観光関連事業者に必要なとされる知識を体系的に学び、観光における唯一の国家試験である「旅行業務取扱管理者資格」を習得することを目標としている。  
9月上旬に実施される旅行業務取扱管理者試験を受験する学生が履修し、合わせて「旅行業法関連法規」も履修することが望ましい。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

旅行実務への理解

#### 目標：

旅行業務取扱管理者資格に関する知識を得ることで、旅行実務の理解を深める。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

理解した知識から問題を解き、自分の長所・短所を発見し認識することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。  
（出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合成績処理を行わない）  
定期試験

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

演習	:	授業で行う演習を独自のルーブリックに基づいて60点満点で評価します。
60 %		
定期試験	:	国内旅行業務取扱管理者資格の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。
40 %		

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
旅行業実務シリーズ3	・国内運賃・料金	・JTB総合研究所	・2023年
旅行業実務シリーズ4	・国内観光資源	・JTB総合研究所	・2023年

## 参考文献等

- ・『ユーキャンの旅行業務取扱管理者 観光資源（国内・海外）ポケット問題集&要点まとめ』自由国民社
- ・『国内旅行業務取扱管理者試験対策：科目別速習問題集』JTB総合研究所

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・必ず使用教科書を購入すること。
- ・国家試験「旅行業務取扱管理者試験」を必ず受験すること。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・旅行業務取扱管理者資格試験の科目は広範囲におよび、本授業の学習だけでは不足である。授業外においても自主的かつ積極的に予習・復習を行うこと。
- ・「旅行業法関連法規論」も合わせて履修することが望ましい。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。
- ・対面での講義を補足するためにGoogle Classroomを活用する可能性もあり。
- ・教育研究支援センター\*「旅行業務取扱管理者試験（国内）対策講座」も併せて受講することが望ましい。  
①5/11(木)5限 ②5/18(木)5限 ③5/25(木)5限 ④6/1(木)5限 ⑤6/8(木)5限 ⑥6/15(木)5限 ⑦6/22(木)5限 ⑧6/29(木)5限 ⑨7/6(木)5限 ⑩7/13(木)5限 ※模擬試験実施 ⑪⑫8/31(木)3-4限 ⑬⑭9/1(金)3-4限(予定)

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3時限（13:10～14:50）
場所：	西館4階：松田研究室
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、「運賃・料金」「観光資源(=地理)」の全体像 今後の授業の進め方について、「運賃・料金（JR、航空、バス、フェリー、宿泊）」及び「観光資源(=地理)」の概略を含め、旅行業務取扱管理者試験について理解する。	振り返りシートの作成。教科書の該当する箇所の通読等。	4 時間
第2回 JR運賃・料金（1）JRの概要 JRの概要（運賃と料金の違い、年齢区分等）及び運賃の基本等について学ぶ。	振り返りシートの作成。教科書の該当する箇所の通読等。	4 時間
第3回 JR運賃・料金（2）JR運賃 運賃の例外、割引（往復、学生、重複）及び発売日、有効期間、途中下車等について学ぶ。	振り返りシートの作成。教科書の該当する箇所の通読等。	4 時間
第4回 JR運賃・料金（3）特急料金 特急料金の基本、新幹線7路線と運行列車に関する知識等について学ぶ。	振り返りシートの作成。教科書の該当する箇所の通読等。	4 時間
第5回 JR運賃・料金（4）新幹線 特急料金：新幹線内乗継等について学ぶ。	振り返りシートの作成。教科書の該当する箇所の通読等。	4 時間
第6回 JR運賃・料金（5）乗継割引	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間



	特急料金：乗継割引等について学ぶ。		
第7回	<b>JR運賃・料金（6）グリーン料金等</b> その他の料金（グリーン、寝台、個室）、山形・秋田新幹線等について学ぶ。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第8回	<b>R運賃・料金（7）払戻・変更、団体</b> 運賃・料金に関する払戻・変更、団体の取り扱い等について学ぶ。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第9回	<b>国内航空</b> 年齢区分、予約、購入期限、有効期間、運賃概要、取消・払戻等について学ぶ。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第10回	<b>バス、フェリー、宿泊</b> 年齢区分、運賃・料金の詳細、購入期限、有効期間、取消・払戻等について学ぶ。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第11回	<b>国内観光資源（1）北海道、東北地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第12回	<b>国内観光資源（2）東北、関東、中部地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第13回	<b>国内観光資源（3）中部、近畿、中国地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間
第14回	<b>国内観光資源（4）四国、九州、沖縄地方</b> それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4 時間

522

授業科目名	地域観光マネジメント				
担当教員	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営マネジメントを担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。(全14回)				

### 授業概要

地域経営は経済効果や雇用創出の面から日本の最も重要なテーマの一つです。この授業では地域における政策・制度と企業のビジネスについて学びます。また近年重視される観光について、特に近畿圏のインバウンドの最新事例を取り上げ、その背景にある地域の課題と意義を発見します。また持続可能性について、国や地方自治体だけではなく、民間や地域住民の参加や協働から議論します。そして、一連の講義と事例研究を通し、自ら積極的、主体的に学ぶ力を身につけます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

#### 具体的内容：

地域をマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の面から学ぶ  
地域における事業者の環境適応性を理解する

#### 目標：

地域の仕組みを理解できる。  
適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる力を身につける。

#### 汎用的な力

1. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案
2. DP6. 課題解決への主体的・積極的な取り組み

地域に関する課題解決に向けて方策を企画・分析・活用できる  
課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。  
グループワーク・定期試験を受けること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

- 授業での取り組み : 独自のルーブリックに基づいて、合計60点満点で評価します。
- 60 %
- 定期試験 : 試験の素点に基づいて到達度を評価します。

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

- ・「地域創造のための観光マネジメント講座」学芸出版社（2016）
- ・「観光白書 最新版」（国土交通省）

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
- ・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3時限（13:10～14:50）  
 場所： 西館4階 松田研究室  
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。  
 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp  
 メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 授業の目的と方法について説明をします。前半では地域観光について基本的なことを学び、後半ではグループワークをおこないます。	Google Classroomで振り返りシートをつくる	4 時間
第2回 日本における人口減少と高齢化 国内の人口減少・少子高齢化について理解します。そのうえで地方における観光の意義について考えます。	観光における地方の取り組みについて調べておくこと。	4 時間
第3回 地方と地域のガバナンス 都市圏と地方圏（三大都市圏と東京一極集中）を理解します。そのうえでインバウンド政策など「観光立国」日本の政策について理解します。	観光組織について調べておくこと。	4 時間
第4回 地域観光の組織と主体（ケイパビリティ） 地域観光の組織と主体を理解します。DMOの事例などから理解します。さらに、地域活性化としての観光からケイパビリティの概念など組織の在り方を多角的に理解します。	戦略とは何か調べておくこと。	4 時間
第5回 地域観光の戦略（ブランディング） 地域が目的を達成するために必要となる打ち手を観光から考えます。さらにブランディングの概念など多角的に地域観光を理解します。	日本で開催されるイベントについて調べておくこと。	4 時間
第6回 地域観光の振興（MICE・イベント） イベントや国際会議などの国家的な取り組みを通して、地域活性化との関連を理解します。	地域観光の閑散期対策やオーバーツーリズムについて調べておくこと。	4 時間
第7回 地域観光の課題（閑散期・オーバーツーリズム） 変化の激しい環境下での地域観光の現状を理解します。地域を取り巻く課題と視点を観光から考えます。閑散期やオーバーツーリズムなど多角的に課題を考えます。	調査対象について調べておくこと。	4 時間
第8回 大阪の事例調査①（調査対象を選ぶ） 調査の下調べをします。調査の目的、方法を理解したうえで調査対象を選びます。さらに資料をどのように入手するか、資料がどの程度あるかを調べます。	調査内容について調べておくこと。	4 時間
第9回 大阪の事例調査②（調査内容を決める）	フィールドワークの技法について調べておくこと。	4 時間

	下調べによってわかったことをふまえて、調査内容を決めます。さらに、観光資源とは何か、資源の発掘から観光資源への開発などの理解を深めます。		
第 10 回	<b>大阪の事例調査③（フィールドワーク）</b> フィールドワークでの観察をおこないます。より効果的な調査となるように、各グループで個々の役割を主体的かつ積極的に担います。	グループでのフィールドワークの観察内容をまとめておく。	4 時間
第 11 回	<b>大阪の事例調査③（調査）</b> 学生同士の協働による調査を通して、地域観光の現状を理解します。	各自で発表の準備をおこなう	4 時間
第 12 回	<b>発表会（1日目）</b> 地域観光の調査内容をまとめ・発表します。パワーポイントを用いてプレゼンテーションをおこないます。	各自で議論の準備をおこなう	4 時間
第 13 回	<b>発表会（2日目）</b> 発表した内容に対して質疑応答をします。グループで課題解決の方向性を確認します。	議論の準備をしておく。	4 時間
第 14 回	<b>調査内容の分析と議論</b> 調査を全員で振り返ります。本授業でのフレームワークを使い、調査内容を分析し議論したものを可視化します。	Google Classroomでまとめておく	4 時間

522

授業科目名	観光まちづくり論				
担当教員	原田弘之				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

### 授業概要

観光まちづくりとは「観光」×「まちづくり」で、住んでよし、訪れてよしのまちづくりのことです。観光客が特定の観光地のみを訪ねるだけではなく、例えば、まちにある人気のレストランで食事をしたり、ショップを訪ねたり、住民による観光ガイドにまちを案内してもらったりなど、観光客がまちに直接ふれることにより、ご当地の事業者や住民にとっても誇りが持て、メリットのある観光で、近年広がっています。この授業では、公園などの公共施設の魅力化、まちごとミュージアム、地域分散型宿泊施設、道の駅、農業との連携、農泊、ワーケーション、地域芸術祭などテーマを設定した上で、事例等について学び、観光まちづくりの実態と効果、今後の課題や方向性について一緒に考えます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

観光まちづくりの考え方や多様な事例や展開

#### 目標：

観光まちづくりの考え方を学び、全国の多様な角度からの事例を知ることにより、観光や地域を深く捉え、活用や展開について考える力を身に付けることができる。

2. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解

観光まちづくりの事例における事業創出と運営ノウハウ

観光まちづくりの事例を学び、分析することにより、関連産業や事業の創出や運営の方法について学ぶことができる。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

個人ワークとグループワークを通して、観光まちづくりの事例を調査・分析することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ふりかえりシート・受講態度

：前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。

40 %

グループワーク

：後半のグループワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。

40 %

期末テスト : 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

20 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著 (2022) 『新しい観光学』千倉書房  
 NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編 (2016) 『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社  
 国土交通省『観光白書』(最新版) ※webにも掲載

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。  
 授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限  
 場所： 個人研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明します。 観光まちづくりの現れた背景や経緯、観光やまちづくりとの違いを踏まえた定義や意義等について考えます。 現状及び今後の社会情勢や観光を取り巻く状況を踏まえて、これからの観光まちづくりの求められる方向性について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4 時間
第2回 「魅力的な公共施設」と観光まちづくり まちなかにある公園や博物館・美術館、スポーツ施設などの公共施設は、もとは市民の憩いの場や教育・健康等を増進するための施設でしたが、近年、建物等の外観もかつこよく、内外の居心地もよく、飲食や物販等の機能も持つ、いわば観光的な施設としても変身してきました。それにより、公共施設への集客数が上がり、さらには周辺のまちにもお客さんが流れるなど波及効果も見られる場合もあります。こうした取組について事例を中心に学び、魅力的な公共施設と観光まちづくりが現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方について考えます。	魅力的な公共施設と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第3回 「まちまるごとミュージアム」と観光まちづくり まちなかにあるごく普通の自然、歴史・文化、建物、お店など多様な資源を訪問スポットとして捉え、まち全体を観光フィールドと考えた「エコミュージアム」「まちなか博物館」などの考え方があります。それにより、まちのイメージアップや交流人口の増加、来訪者のみならず地域住民の参加や誇りの向上などを目的とする典型的な観光まちづくりです。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	まちまるごとミュージアムと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
第4回 「地域イベント」と観光まちづくり	地域イベントと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間

	<p>まちなかにある数多くのレストランやカフェなどが参加し、ある一日を設定して、来訪者は5枚つづりのチケットを持ち、参加店舗の中から5軒を選んで各お店を訪ね、それぞれで1ドリンク、1フードを楽しむ。それが典型的な「まちなかバル」と呼ばれるイベントです。来訪者は普段は利用しないお店に入り、新しいシェフやメニューとであることができる、一方、お店側は来訪者にPRし、新しいお客さん獲得の可能性がある観光まちづくりの一種です。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>		
<p>第5回 「地域分散型宿泊施設」と観光まちづくり</p>	<p>ホテルや旅館など宿泊施設は1つの建物の中で完結しているのが一般的ですが、近年、泊まるのはまちなかの空き家にある部屋、夕食は地域で人気のある居酒屋、お風呂は銭湯、朝食は近くの喫茶店でモーニングを食べるなど、あたかも地域住民として暮らすように「地域分散型宿泊施設」の取組が現れてきました。イタリア発祥で日本でも取組が進みつつある観光まちづくりの一種です。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>地域分散型宿泊施設と観光に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4 時間</p>
<p>第6回 「道の駅」と観光まちづくり</p>	<p>道の駅とはもともと道路利用者が休憩や道路情報入手することを中心に1993年から設置され始めましたが、現在は地域農産物直売所や加工品の開発・物販店、レストラン、観光案内コーナー、公園など付加価値機能の部分が重視され、全国で1,000か所以上設置されています。来訪者が立ち寄り、地域住民も農産物等を出品したり、買い物などに利用する、まさに観光まちづくりや地域活性化の拠点となっています。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>道の駅と観光に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4 時間</p>
<p>第7回 「農業」と観光まちづくり</p>	<p>農業が関係する観光は高度成長期以来さまざまなものがあります。みかんやぶどうなどの味覚狩りなどの観光農園、都市農村交流による農村活性化をねらったグリーンツーリズムという名のもとに農村における貸農園や直売所、宿泊施設等の整備、6次産業化などです。またアフターコロナの時代には改めて、安全な食や農産物、地産地消、エンカル消費などが注目され農家と消費者（市民）が直接つながる動きもあります。それらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>農業と観光に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4 時間</p>
<p>第8回 「農泊」と観光まちづくり</p>		<p>農泊と観光に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4 時間</p>

<p>小学校や中学校の修学旅行で農家に泊まり、農作業体験や郷土料理の調理や試食体験、地元の人との交流や地域の魅力資源への案内付き訪問などをする体験プログラムが特に2000年代から広がってきました。そして現在は子どもの教育旅行だけではなく、大人やインバウンド客もターゲットとして含めた「農泊」という取組として全国で進められています。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>ワーケーションと観光に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 9 回 「ワーケーション」と観光まちづくり</p> <p>「ワーケーション」とはWork(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすことで、コロナ禍で注目を集めた新しい旅行スタイルの1つです。企業側にとっては、普段とは異なる就業環境による、仕事の質の向上や有給休暇の取得促進、従業員にとってはリフレッシュ効果や長期休暇の取得、受け入れ地域にとっては、平日旅行需要の創出、関係人口の増加、遊休施設等の有効活用などのメリットがあるとされ、近年、取り組む企業や自治体も増えつつあります。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>第 10 回 「地域芸術祭」と観光まちづくり</p> <p>日本中で開催されている「地域芸術祭」のパイオニアで、かつ世界最大級の国際芸術祭として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」があります。これは新潟県の越後妻有地域で2000年から始まり、3年に1度開催されています。豊かな四季が巡る里山で1年を通して約200点の作品を楽しめるだけでなく、季節ごとに企画展やイベント、ツアーを開催しており、アート作品や旧小学校での食事や宿泊もできます。地域に内在するさまざまな価値をアートを媒介として掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域再生の道筋を築くことを目指しています。また、同様の地域芸術祭として「瀬戸内国際芸術祭」があります。こちらは瀬戸内海の島々が舞台であり、来訪者は船で島々を巡ります。これらはまさに過疎地域における観光まちづくりの実験とも言えます。これらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>4 時間</p>
<p>第 11 回 「ローカル鉄道やバス」と観光まちづくり</p> <p>人口減少やマイカー普及による利用者減少に加え、特に、近年のコロナ禍を受けて、地方における鉄道やバスなどの公共交通の経営は非常に厳しくなっています。そうした問題を、地域の通勤通学や観光利用などを含む沿線自治体にとっての重要な地域課題として捉え、さまざまな対応策が実施されています。観光列車の運行や名物駅長の配置や発信、地域と連携した駅空間の活用、人とモノの両方を載せるバス便の工夫、イベントバスとしての改良などです。これらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	<p>ローカル鉄道やバスと観光に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4 時間</p>



第 12 回	<b>観光まちづくりに関する意見交換 (ワールドカフェ)</b>	観光まちづくりに関する気づきと提案に関するスライド作成	4 時間
	11回までの授業をふりかえり、印象に残った、関心のあるテーマを選び、その理由と今後の展開方向やアイデアについて個人ワークとして考えた上で、ワールドカフェ方式で、複数人との間で共有、意見交換し、他人からの気づきを得るとともに、自分の考えを深めるきっかけとします。次回までの課題として、観光まちづくりに関する気づきと提案に関するスライドを作成します。		
第 13 回	<b>発表会 (前半)</b>	自分と他グループの発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
	12回のワークを踏まえ、各自が作成したスライドに基づき、観光まちづくりに関する気づきと提案に関して、各自、発表を行います。自分の発表だけではなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。		
第 14 回	<b>発表会 (後半) とまとめ</b>	自分と他グループの発表及び講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4 時間
	13回に引き続き発表会を行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。		

522

授業科目名	財務諸表論				
担当教員	笠岡恵理子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

財務会計は、株主、投資家、債権者等の企業外部の利害関係者に対し、経営成績や財政状態を報告することを目的とした会計である。本講義では、財務諸表の作成にあたり、企業が遵守すべきルールである会計基準について理解を深めていく。主として、財務会計の機能と制度、財務諸表における利益計算、企業会計原則の一般原則、および個々の会計項目における会計処理について学んでいく。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

- 貸借対照表および損益計算書の分析方法に関する知識
- 貸借対照表および損益計算書項目における会計処理の知識

#### 目標：

- 企業における財政状態や経営成績について、データを通して分析し、判断できるようになる。
- 財務諸表を構成する個別の会計項目における会計処理を理解する。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP8. 他者とのコミュニケーション

- 企業の財務諸表を見て、その内容の分析および問題点の発見ができる。
- 与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

小テスト

： 授業中に行う小テストにより内容理解の確認を行う。

30 %

課題の提出

： 学習内容を理解し、課題の発見ができているかを確認する。

30 %

期末テスト

: 授業内容の理解度を評価する。

40 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

桜井久勝『財務会計講義 第23版』中央経済社、2022年。  
伊東邦雄『新・現代会計入門 第5版』日本経済新聞出版、2022年。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目  
場所： 個人研究室（西館2F）  
備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。  
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>オリエンテーションおよび財務会計の機能</b> 講義の進め方に関する説明 財務会計の利害調整機能と情報提供機能 財務会計の法規制	配布資料（財務会計の機能）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第2回 <b>貸借対照表と損益計算書</b> 貸借対照表と損益計算書における会計項目	配布資料（貸借対照表と損益計算書）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第3回 <b>利益計算の仕組み</b> 企業活動と財務諸表 複式簿記の構造	配布資料（利益計算の仕組み）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第4回 <b>会計基準</b> 会計基準の必要性 会計基準の設定 企業会計原則の一般原則	配布資料（会計基準）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第5回 <b>利益測定の基礎概念</b> 現金主義会計と発生主義会計 発生主義会計の基本原則	配布資料（利益測定の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第6回 <b>資産評価の基礎概念</b> 資産評価の基準（取得原価、取替原価、純実現可能価額、割引現在価値）	配布資料（資産評価の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第7回 <b>現金預金と有価証券</b> 現金および預金 有価証券とは 有価証券の範囲と区分 有価証券の取得原価 有価証券の期末評価	配布資料（現金預金と有価証券）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第8回 <b>売上高と売上債権</b> 収益認識に関する会計基準 売上債権（売掛金、受取手形、貸倒引当金）	配布資料（売上高と売上債権）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第9回 <b>棚卸資産と売上原価</b> 棚卸資産の範囲と区分 棚卸資産の取得原価 棚卸資産の原価配分 棚卸資産の期末評価	配布資料（棚卸資産と売上原価）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第10回 <b>有形固定資産と減価償却</b>	配布資料（有形固定資産と減価償却）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間

	固定資産の範囲と区分（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産） 有形固定資産の取得原価 減価償却 固定資産の期末評価		
第 11 回	<b>無形固定資産</b>  知的財産と研究開発 無形固定資産とは 無形固定資産の取得原価 無形固定資産の償却 繰延資産	配布資料（無形固定資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第 12 回	<b>負債</b>  負債の範囲と区分 引当金 流動負債 固定負債 偶発債務	配布資料（負債）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第 13 回	<b>株主資本と純資産</b>  純資産の構成 払込資本——資本金と資本剰余金 稼得資本——留保利益	配布資料（株主資本と純資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4 時間
第 14 回	<b>まとめ</b> 第1回～第13回までの授業内容の復習	授業で配布した問題の見直し	4 時間

532

授業科目名	Academic English 2				
担当教員	坂井純子、J・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Dr. Ring has business management experience at a medium sized company.				

### 授業概要

This is an academic English class with basic business content. This course also includes instruction in basic critical thinking skills (CTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. Critical thinking skills are necessary for success at a university overseas and for a successful career.

We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen business topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

#### 具体的内容：

#### 目標：

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

Academic English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.

Students will be able to:  
Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.

2. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.

Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions.  
Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one's ideas and logic clearly.

#### 汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取り組み

Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their critical thinking skills and objectivity.

2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Research, exchange, check, and confirm factual information. Give a presentation on a topic of interest with teacher support. Develop communication skills necessary for international exchange.

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)
- ・その他(以下に概要を記述)

International exchange and collaboration with students, professors, and/or business people located overseas.

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

#### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
Midterm performance event/presentation 25 %	: Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.
Academic English portfolio 25 %	: Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.
Class participation 20 %	: Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric.
Critical thinking skills 10 %	: Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions. Assessed based on Professors' rubric.
Project-based learning project 20 %	: Theme and evaluation standards based on class and instructor choice.

#### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
笹島 茂	・ CLIL Business Management	・ 三修社	・ 2023 年
上野育子	・	・	・ 年
船越多枝 / Brandon Kramer	・	・	・ 年

#### 参考文献等

N/A

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

It is the policy of this class to protect the privacy of all students and class participants. All data and videos that are collected for evaluation will be deleted at the end of a one year. Students may not take screen captures, repost class materials, personal information or photos of others, or videoconference discussions to the Internet. Students must not collect personal information or photos of anyone in this class. The images, text, and materials used in this class are the property of the copyright holders.

#### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。  
場所： 初回授業で案内します。

#### 授業計画

第 1 回 Orientation, Chapter 1 "Business and our lives" Reading

#### 学修課題

Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad

#### 授業外学修課題にかかる目安の時間

1 時間

		Course Introduction Academic English and Critical Thinking Skills Chapter1: Reading and vocabulary	
第 2 回	<b>Orientation, Chapter 1 "Business and our lives" Expansion</b> Academic English and Critical Thinking Skills Expanded review and discussion Giving reasons why: Your favorite company/product Management, stakeholders, global markets.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 3 回	<b>Chapter 2 "Enterprises and companies" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 4 回	<b>Chapter 2 "Enterprises and companies" Expansion</b> Expanded review and discussion of Chapter 2. Discussion: a sense of purpose, ethics, and mission in business.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 5 回	<b>Chapter 3 "Strategy 1: the PESTLE analysis" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 6 回	<b>Chapter 3 "Strategy 1: the PESTLE analysis" Expansion</b> Expanded review and discussion of Chapter 3. Discussion and research: conducting a PESTLE analysis in some detail.	Preparation for mid-term presentation	1 時間
第 7 回	<b>Chapter 4 "Strategy 2: the SWOT analysis" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 8 回	<b>Chapter 4 "Strategy 2: the SWOT analysis" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion and research: conducting a SWOT analysis in some detail.	Preparation for next chapter	1 時間
第 9 回	<b>Chapter 5 "Resource Management" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 10 回	<b>Chapter 5 "Resource Management" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion: sustainable tourism.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 11 回	<b>Chapter 6 "Team Management 1" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 12 回	<b>Chapter 6 "Team Management 1" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion: what it takes to lead.	Preparation for mid-term presentation	1 時間
第 13 回	<b>Preparation and Discussion for "Semester Study Abroad"</b> Learning about their destination countries Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad	Preparation for mid-term presentation	1 時間
第 14 回	<b>Mid-term presentation</b>	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間

	The mid-term presentation topic will be either based on the text, in class discussions, or to be decided after a discussion by students and teachers.		
第 15 回	<b>Chapter 7 "The Japanese HRM System" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 16 回	<b>Chapter 7 "The Japanese HRM System" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion: international business and country specific human resource management	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 17 回	<b>Chapter 8 "What is marketing?" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 18 回	<b>Chapter 8 "What is marketing?" Expansion</b> Expanded review and discussion Business concepts discussion: what is "glocal" marketing?	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 19 回	<b>Chapter 9 "The marketing mix" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 20 回	<b>Chapter 9 "The marketing mix" Expansion</b> Expanded review and discussion Marketing continued: how to "globalize" a product?	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 21 回	<b>Chapter 10 "Financial statements" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 22 回	<b>Chapter 10 "Financial statements" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion: business ethics, investors, and stakeholders.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 23 回	<b>Chapter 11 "Digital technology and business" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 24 回	<b>Chapter 11 "Digital technology and business" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion/case study: social media and business ethics, emotional contagion (the dangers of "the Facebook effect") and the future of business life in the "Metaverse"	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1 時間
第 25 回	<b>Chapter 12 "Taking SDGs into business" Reading</b> Pre-reading activities Reading and vocabulary Discussion based on the reading	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1 時間
第 26 回	<b>Chapter 12 "Taking SDGs into business" Expansion</b> Expanded review and discussion Discussion: sustainable tourism and the SDGs. Real world examples	Preparation for final presentation	1 時間
第 27 回	<b>Preparation for final presentation</b> Complete writing Speech practice Rehearsal	Preparation for final presentation	1 時間
第 28 回	<b>Final Presentation</b>	Review/ Reflection work	1 時間



Delivery of final presentation.

---

532

授業科目名	Conversation Skills A				
担当教員	エリック				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

The goal of this class is to acquire conversational English skills useful in tourism and business settings. Students will learn expressions and vocabulary necessary for interacting with people from diverse cultural and linguistic backgrounds and in customer service situations, and practice using them clearly and appropriately. Students will also learn small talk to build good relationships with others, how to speak from the other person's point of view, and the differences in communication and manners in different cultures and how to be considerate of others' needs. E-learning and presentations skills will also be required in the course. Students can expect to participate in the university presentation contest.

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

Students will practice their speaking and listening skills in English in a variety of international contexts connected to the international tourism business industry.

#### 目標：

By the end of the course, students should be better able to express themselves to people from different linguistic and cultural backgrounds through their English speaking skill

#### 汎用的な力

1. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Students will learn how to understand the needs of tourists in a variety of cultural contexts. Students will practice skills connected to the international tourism industry.

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

Students must turn in their assignments on time. All presentations must be made on presentation day. Late work and assignments may be reflected in the student's assessment for the course.

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
Homework/Assignments  25 %	: Students will receive a grade for homework completion. Each homework assignment will have a deadline. Other research assignments and reports will be graded on formats discussed in class.
Quizzes  20 %	: It is extremely important that students learn international tourism vocabulary. Quizzes will be frequent and cumulative. Students should be ready for announced and unannounced vocabulary quizzes
Presentations  30 %	: Students will give presentations and be evaluated on a rubric. Students will also prepare for and participate in the university presentation contest.
Final Exam  25 %	: Students will be assessed on the cumulative material from the semester. The final exam will test the student knowledge of lexis, grammar, and tourism business practices covered in the semester.

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Yumiko Ishitani	• Skills for Better Writing<Basic>構造で書く英文エッセイ	• Nanundo南雲堂	• 2022年
Iwonna Dubicka・Margaret O'Keeffe	• English for International Tourism Pre-Intermediate Coursebook	• Pearson	• 2013年

### 参考文献等

特になし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

クラスによって購入するテキストが変わりますので十分に注意してください（各クラス1冊です）。  
 クラス①②: English for International Tourism Pre-Intermediate Coursebook  
 クラス③: Skills for Better Writing<Basic>構造で書く英文エッセイ

All students will be responsible for their own work. Use of translation machines and artificial intelligence (DeepL, Google Translate, etc) is not the students' original work and therefore should not be used. Students should be diligent, creative, and remember that they do not need perfect English.

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 初回授業で案内します。  
 場所: 初回授業で案内します。

### 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>Course Introduction; Unit 1: World Tourism</b> There will be an overview of the course, along with course expectations and guidelines. Students will learn vocabulary and terms associated with world tourism. They will practice speaking about tourist destinations, and practice their skills in reading about the tourism industry.	E-learning; Research: Tourism in your country	1 時間
第2回 <b>Unit 1: The United States</b>	E-learning; Survey: Tourism in Japan	1 時間

	Students will practice their skills in reading about tourism in the United States. They will also practice speaking about the facts they have learned, and apply this knowledge to prepare a survey about tourism in Japan.		
第 3 回	<b>Unit 1: Professional Skills</b>  Students will practice their skills in listening for specific details. They will also practice their skills in checking and confirming details. There will be a role-play task at the end of the lesson.	E-learning; Writing: Confirming a booking	1 時間
第 4 回	<b>Unit 2: Jobs in Tourism</b>  Students will learn vocabulary connected to jobs in tourism. They will practice their skills in reading and speaking to learn and discuss advantages and disadvantages to working in the field of tourism.	E-learning; Research: Job Adverts in English	1 時間
第 5 回	<b>Unit 2: A Day in the Life of a Tourism Industry Worker</b>  Students will practice their skills in reading and critical thinking skills to learn about and evaluate realistic expectations in the tourism industry. Students will discuss advantages and disadvantages of working in the hotel industry, and practice making questions in English about tourism industry jobs.	E-learning; Grammar: Present Simple and Continuous	1 時間
第 6 回	<b>Unit 2: Professional Skills</b>  Students will practice their skills in reading to learn about covering letters in English. They will use their critical thinking skills to match appropriate jobs with appropriate interests, and how to express interest in applying for a job connected to the tourism industry.	E-learning; Writing: Covering Letters	1 時間
第 7 回	<b>Mid-Term Progress Check; Unit 3: Visitor Centres</b>  Students will be evaluated on their progress with a Mid-Term progress check. Students will also learn vocabulary associated with visitor information centres, and practice their skills in listening in the context of international visitors. Students will have a chance to practice listening to different dialects of English and understanding various regional pronunciations.	E-learning; Presentation Preparation	1 時間
第 8 回	<b>First Half Review; Tourism Presentations</b>  Students will have a chance to review the first half semester of material. Students will give a presentation based on their research about Tourism in Japan. The presentations will be evaluated on a rubric.	E-learning	1 時間
第 9 回	<b>Unit 3: Bhutan</b>  Students will practice their skills in reading to learn about Bhutan. In groups, students will research about Bhutan and apply their knowledge to determine possible areas for tourism development and promotion in Bhutan. This is a task-based lesson.	E-learning; Research: Comparing Countries	1 時間

第 10 回	<b>Unit 3: Professional Skills</b>	E-learning; Writing: Tourist Destination Write-up	1 時間
Students will use their skills in listening and reading to learn about how to deal with tourist enquiries. They will role play to practice responding to tourist enquiries in English.			
第 11 回	<b>Unit 4: Package Tours</b>	E-learning; Research: Landmark Buildings	1 時間
Students will learn vocabulary connected to cultural heritage and package tours. They will also practice their skills in reading to learn about guided tours in London. They will practice their speaking skills to talk about a two-hour tour.			
第 12 回	<b>Unit 4: Cancun</b>	E-learning; Writing: All-inclusive vs. Tailored Package Tours	1 時間
Students will learn vocabulary connected to options and inclusions of package tours. They will practice their skills in reading to learn about the development of tourism in Cancun. They will listen to recent visitors to Cancun, and use their critical thinking skills to determine the pros and cons of all-inclusive vs. tailored package tours.			
第 13 回	<b>Unit 4: Professional Skills</b>	E-learning; Presentation preparation	1 時間
Students will develop their professional skills in the context of planning city tours for American tourists. They will use their skills in listening and reading to learn how to guide and respond to tourist requests and questions. They will also work in groups to propose a UN World Heritage site.			
第 14 回	<b>Second Half Review; Country Presentations</b>	E-learning; University Presentation Contest preparation	1 時間
Students will review semester course material. Students will give a presentation based on their research about comparing countries. This presentation will be graded on a rubric.			

532

授業科目名	Conversation Skills B				
担当教員	エリック・坂井純子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

This course is designed to further develop the content of Conversation Skills A and to acquire more advanced conversational skills in English. In addition to practicing the appropriate exchange of information in study abroad and other situations in which students are expected to live abroad, students will learn expressions and vocabulary necessary in various business situations (answering the phone, hosting a meeting, explaining materials, answering questions about materials, giving opinions, etc.). The goal of this course is to acquire the necessary expressions and vocabulary for communication in different cultures. E-learning and presentations skills will be a requirement for the course. Students can expect to participate in the university presentation contest. Classes will be once a week.

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

#### 具体的内容：

Students will practice their speaking and listening skills in English in a variety of international contexts connected to the international tourism business industry.

#### 目標：

By the end of the course, students should be better able to express themselves to people from different linguistic and cultural backgrounds through their English speaking skill

#### 汎用的な力

1. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Students will learn how to understand the needs of tourists in a variety of cultural contexts. Students will practice skills connected to the international tourism industry.

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

## 注意事項等

Students must turn in their assignments on time. All presentations must be made on presentation day. Late work and assignments may be reflected in the student's assessment for the course.

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

Homework/Assignments	:	Students will receive a grade for homework completion. Each homework assignment will have a deadline. Other research assignments and reports will be graded on formats discussed in class.
	25 %	
Quizzes	:	It is extremely important that students learn international tourism vocabulary. Quizzes will be frequent and cumulative. Students should be ready for announced and unannounced vocabulary quizzes
	20 %	
Presentations	:	Students will give presentations and be evaluated on a rubric. Students will also prepare for and participate in the university presentation contest.
	30 %	
Final Exam	:	Students will be assessed on the cumulative material from the semester. The final exam will test the student knowledge of lexis, grammar, and tourism business practices covered in the semester.
	25 %	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田村祐・Paul Wicking	・Getting Things Done [Book 2]	・三修社	・2023年
Iwonna Dubicka・Margaret O'Keeffe	・English for International Tourism Pre-Intermediate Coursebook	・Pearson	・2013年
木村 啓子・田川 憲二郎・Edward R. Howe	・First Voyage from Reading to Writing	・南雲堂	・2021年

## 参考文献等

特になし

## 履修上の注意・備考・メッセージ

All students will be responsible for their own work. Use of translation machines and artificial intelligence (Deepl, Google Translate, etc) is not the students' original work and therefore should not be used. Students should be diligent, creative, and remember that they do not need perfect English.

クラスによって必要なテキストが違いますのでご注意ください。

- 1) English for International Tourism Pre-Intermediate (Ericクラス) 前期で使用したテキストと同じです
- 2) First Voyage - From Reading to Writing (坂井クラス) 後期から使用します
- 3) Getting Things Done 前期に引き続き、主として個別使用で使用します

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

## 授業計画

## 学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

第 1 回 Course Introduction; Unit 5: Hotels/First Voyage U1-3 Reading

E-learning / Grammar Review

1 時間

	Students will receive a brief introduction to the course, complete with course expectations. Students will practice their skills in reading and listening in the context of hotel service and facilities. They will use problem solving skills to predict staff responses to guest requests. They will role play at the end of the lesson as hotel guests and staff.		
第 2 回	<b>Unit 5: Room with a View / First Voyage U4-7 Reading</b> Students will learn vocabulary in the context of hotel services and facilities. They will read to learn about trends in the hotel industry, and use their critical thinking skills to recommend the right hotel according to guest profiles.	E-learning; Research: Hotels in Your Area / Grammar Review	1 時間
第 3 回	<b>Unit 5: Professional Skills / First Voyage U8-10 Reading</b> Students will use their skills in reading to learn about common hotel guest complaints. They will acquire professional skills in learning how to deal with customer complaints, and appropriate ways to handle complaints in English. There will be a role play at the end of the lesson.	E-learning; Writing: Responding to a written complaint / Grammar Review	1 時間
第 4 回	<b>Presentation Contest Practice; Unit 6: Food and Beverage/ First Voyage U11</b> Students will engage in a practice performance for the University Presentation Contest.  Students will also learn vocabulary connected to the restaurant industry. They will practice their skills in listening to understand customer orders. They will practice giving and receiving food orders.	E-learning; Presentation Contest Preparation / Grammar Review	1 時間
第 5 回	<b>Presentation Contest</b> Students will participate in the University Presentation Contest. They will be evaluated according to the University Presentation Contest rubric.	E-learning / Grammar Review	1 時間
第 6 回	<b>Unit 6: Big Events / First Voyage U12</b> Students will practice their skills in reading to learn about catering for events. They will learn about countable and uncountable nouns. They will practice their speaking skills in the context of catering for an event.	E-learning; Research: Catering for Events / Grammar Review	1 時間
第 7 回	<b>Unit 6: Professional Skills/ First Voyage U13</b> Students will learn vocabulary used to describe dishes. They will practice their listening skills to learn about special requests in a dining situation. They will apply their knowledge to devise special menus for people whose diets do not allow them to eat traditional Japanese food. They will research and provide appropriate menus for people from different religious communities, vegetarians and vegans.	E-learning; Writing: Cultural Awareness and Food / Grammar Review	1 時間
第 8 回	<b>Mid-term Progress Check; Unit 7: Nature Tourism / First Voyage U14</b>	E-learning; Research: Popular Outdoor Activities / Grammar Review	1 時間



	<p>Students will be assessed in their progress through the course with a mid-term progress check. Students will also learn about nature tourism through some listening activities. They will work in groups to plan an itinerary for nature tourism in Japan.</p>		
第 9 回	<p><b>Unit 7: Kenya / First Voyage U15</b></p> <p>Students will practice their skills in reading to learn about tourism in Kenya. They will use the information they learn to practice speaking about natural wonders in Japan. In groups, they will research and prepare a short presentation about a natural wonder in Japan.</p>	E-learning; Writing: Natural Wonders in Japan / Grammar Review	1 時間
第 10 回	<p><b>Unit 7: Professional / First Voyage U16</b></p> <p>Students will learn about the structure of a presentation in the tourism industry. Students will practice their skills in listening to a presentation about tourism. They will learn the importance of structure in the presentation, and begin work on preparing a presentation about their favorite city or region in Japan.</p>	E-learning; Presentation preparation / Grammar Review	1 時間
第 11 回	<p><b>Unit 8: Air Travel / First Voyage U17</b></p> <p>Students will learn vocabulary associated with the air travel industry. They will practice their listening skills in the context of an airport, and will practice their speaking skills to give directions. They will work in pairs to give directions in an airport setting.</p>	E-learning / Grammar Review	1 時間
第 12 回	<p><b>Unit 8: Flight Safety / First Voyage U18</b></p> <p>Students will practice their reading skills in the context of air traffic control. They will work in pairs to write rules and regulations for tourists in a variety of contexts, including air travel.</p>	E-learning; Research: ATCs in Japan / Grammar Review	1 時間
第 13 回	<p><b>Unit 8: Professional Skills / First Voyage U19</b></p> <p>Students will use their skills in listening to determine passenger problems. They will learn professional skills in the area of dealing with difficult passengers. They will role play various situations with difficult passengers in order to practice these professional skills.</p>	E-learning; Writing: Responding to air travel complaints / Grammar Review	1 時間
第 14 回	<p><b>Review: Presentations</b></p> <p>Students will have a chance to review the material from the previous semester. Students will give a presentation on their favorite city or region in Japan as a tourist destination. They will be graded on their presentation according to a rubric.</p>	E-learning / Reflection work	1 時間

532

授業科目名	English for Business 1				
担当教員	山川温				
学年・コース等	2年生以上	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

2. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

#### 具体的内容：

ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。

英語の4技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。

#### 目標：

言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。

ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業参加・課題

#### 評価の基準

： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。

	40 %	
小テスト	:	自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。
	10 %	
プレゼンテーション・プロジェクト	:	授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。
	30 %	
期末考査	:	授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。
	20 %	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Tae Kudo	・ Successful Office English	・ Cengage Learning K.K.	・ 2018年
Takehiko Ohsawa & Ryuichiro Tsutsumi	・ Newspaper English [Revised Edition]	・ Nanundo	・ 2018年

## 参考文献等

適宜授業内にて紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
- 「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計1時間を目安にするといいでしょう。
- 授業参加は全体評価の40%です。授業を欠席した場合は、授業での協働作業や発表がないため参加点はありませぬ。ご注意ください。
- 毎回、授業内に小テストを実施します。
- 毎回、授業終了時に宿題が出されます。
- 授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
- 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業で案内します。
場所：	初回授業で案内します。

## 授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>Class introduction &amp; Unit 1: Speaking &amp; Listening</b> Introductions (1): Introducing yourself/others and describing your job 初対面の挨拶や仕事内の説明に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第2回 <b>Unit 1: Reading and Writing</b> Introductions (2): Introducing yourself/others and describing your job 初対面の挨拶や仕事内容の説明に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 1): Sanrio takes big risk with new strategy	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第3回 <b>Unit 2: Speaking &amp; Listening</b>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間

	Telephone Calls (1): Talking the phone and taking a message 電話の応答や伝言の受け方などに役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 2): New nine-year school category eyed		
第 4 回	<b>Unit 2: Reading and Writing</b>  Telephone Calls (2): Talking the phone and taking a message 電話の応答や伝言の受け方などに役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 3): Species going extinct up to 1,000 times faster than normal	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 5 回	<b>Unit 3: Speaking &amp; Listening</b>  Making an Inquiry (1): Asking about a product/price and responding to an inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応の際に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 4): Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 6 回	<b>Unit 3: Reading and Writing</b>  Making an Inquiry (2): Asking about a product/price and responding to an inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応の際に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 5): Mountain Day created as newest official public holiday	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 7 回	<b>Unit 4: Speaking &amp; Listening</b>  Making an Appointment (1): Making an appointment and changing an existing appointment 約束のとりつけや変更の際に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 6): Simplest animals may help cure brain disease	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 8 回	<b>Unit 4: Reading and Writing</b>  Making an Appointment (2): Making an appointment and changing an existing appointment 約束のとりつけや変更の際に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 7): One-third of all people are now fat, and no country is immune - Study	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 9 回	<b>Unit 5: Speaking &amp; Listening</b>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間

	<p>Receiving a Visitor (1): Welcoming a visitor in the reception area or at the airport          受付けでの来客対応や空港などでの出迎えに役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 8): Superbug threat requires urgent world action - Scientists</p>		
第 10 回	<p><b>Unit 5: Reading and Writing</b></p> <p>Receiving a Visitor (2): Welcoming a visitor in the reception area or at the airport          受付けでの来客対応や空港などでの出迎えに役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 9): Japan neglecting wetlands - Ministry</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 11 回	<p><b>Unit 6: Speaking &amp; Listening</b></p> <p>Invitations (1): Entertaining a business partner and making small talk          接待に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 10): In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 12 回	<p><b>Unit 6: Reading and Writing</b></p> <p>Invitations (2): Entertaining a business partner and making small talk          接待に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 13 回	<p><b>Unit 7&amp;8: Presentation (1)</b></p> <p>Presentations (1): Starting a presentation with a self-introduction and an outline / Introducing a new product in a presentation          プレゼンテーションを始める際の挨拶、会社概要説明、新製品紹介に役立つ表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるプレゼンテーションに向けた資料作成や発表準備を行う。</p> <p>Laptop Computerを持参すること。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 14 回	<p><b>Unit 7&amp;8: Presentation (2)</b></p> <p>Presentations (2): Starting a presentation with a self-introduction and an outline / Introducing a new product in a presentation          挨拶、会社概要説明、新製品紹介に役立つ表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるプレゼンテーションを行う。</p> <p>Laptop Computerを持参すること。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間

532

授業科目名	English for Business 2				
担当教員	山川温				
学年・コース等	2年生以上	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

### 授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

2. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

#### 具体的内容：

ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。

英語の4技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。

#### 目標：

言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。

ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。

#### 汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業参加・課題

#### 評価の基準

： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。

	40 %	
小テスト	:	自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。
	10 %	
プレゼンテーション・プロジェクト	:	授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。
	30 %	
期末考査	:	授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。
	20 %	

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Tae Kudo	・ Successful Office English	・ Cengage Learning K.K.	・ 2018年
Takehiko Ohsawa & Ryuichiro Tsutsumi	・ Newspaper English [Revised Edition]	・ Nanundo	・ 2018年

## 参考文献等

適宜授業内にて紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
- 「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計1時間を目安にするといいでしょう。
- 授業参加は全体評価の40%です。授業を欠席した場合は、授業での協働作業や発表がないため参加点はありません。ご注意ください。
- 毎回、授業内に小テストを実施します。
- 毎回、授業終了時に宿題が出されます。
- 授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
- 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業で案内します。
場所：	初回授業で案内します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 <b>Class introduction &amp; Unit 9: Speaking &amp; Listening</b> Presentation 3 (1): Answering questions following a talk about a new product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第2回 <b>Unit 9: Reading and Writing</b> Presentation 3 (2): Answering questions following a talk about a new product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 11): WHO urged not to restrict e-cigarettes	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第3回 <b>Unit 10: Speaking &amp; Listening</b>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間

	<p>Online Meetings (1): Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で表現と意見を伝える方法に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 12): Baby boomers becoming gray gang</p>		
第 4 回	<p><b>Unit 10: Reading and Writing</b></p> <p>Online Meetings (2): Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で表現と意見を伝える方法に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p> <p>Reading (Unit 13): Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 5 回	<p><b>Unit 11: Speaking &amp; Listening</b></p> <p>Negotiations (1): Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 14): As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 6 回	<p><b>Unit 11: Reading and Writing</b></p> <p>Negotiations (2): Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 15): Feral cats causing extinction of unique Australian mammals</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 7 回	<p><b>Unit 12: Speaking &amp; Listening</b></p> <p>Placing an Order (1): Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 16): Easier-to-use retro cellphones making a comeback</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 8 回	<p><b>Unit 12: Reading and Writing</b></p> <p>Placing an Order (2): Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 17): Tokyo to boost foreign-Japanese signs, info ahead of 2020 Olympics</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 9 回	<p><b>Unit 13: Speaking &amp; Listening</b></p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間



	<p>Making a Complaint 1 (1): Making a complaint about a an order 発注商品のトラブルに関するクレームに関する語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 18): Tea, wine steeped in shared history</p>		
第 10 回	<p><b>Unit 13: Reading and Writing</b></p> <p>Making a Complaint 1 (2): Making a complaint about a an order 発注商品のトラブルに関するクレームに関する語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 19): Evidence found of planet that hit Earth, made moon</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 11 回	<p><b>Unit 14: Speaking &amp; Listening</b></p> <p>Making a Complaint 2 (1): Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関する語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p> <p>Newspaper Reading (Unit 20): Stunning pterosaur eggs found</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 12 回	<p><b>Unit 14: Reading and Writing</b></p> <p>Making a Complaint 2 (1): Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関する語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 13 回	<p><b>Unit 15: Speaking &amp; Listening</b></p> <p>Completing a Project (1): Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への誠意の伝え方に関する表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間
第 14 回	<p><b>Unit 15: Reading and Writing</b></p> <p>Completing a Project (2): Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への誠意の伝え方に関する表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1 時間